SYLLABUS

2025 年度　春学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
教養科目		仏教の思想	(4)	選必	松本　知己	1
		メディアとジャーナリズム	(2)	選必	河田　喜照　ほか	5
		生命の科学　注１	(2)	選必	永長　一茂	9
		民法	(4)	選必	小林　直樹	12
キャリア教育科目		事業論Ⅱ	(1)	選必	小田切　勇治　ほか	16
専門科目	経営学科	グローバル経営論	(2)	選必	グエン･チ･ギア	18
		会社法Ⅰ	(2)	選必	白石　智則	21
		組織学習論	(2)	選択	長谷川　直樹	24
		監査論Ⅰ	(2)	選択	紫関　正博	27
		租税法	(2)	選択	金子　輝雄	30
		財務戦略	(2)	選択	長谷川　美千留	33
		経営情報論　注２	(2)	選択	古賀　広志	36
		商業実習	(4)	選択	砂場　孝一郎	39
		地域企業論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	生田　泰亮	43
		地域社会論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木　てる	46
		環境経済学　【他学科展開科目】	(2)	選択	青山　直人	50
		地域経営論　【他学科展開科目】	(2)	選択	足達　健夫	53
	経済学科	金融経済学Ⅱ	(2)	選必	山本　俊	56
		地域経済学	(4)	選必	樺　克裕	59
		産業組織論	(4)	選必	橋本　悟	63
		実証経済分析	(2)	選択	小寺　俊樹	67
		環境経済学	(2)	選択	青山　直人	50
		ファイナンス理論	(2)	選択	山本　俊	70
		社会保障論	(2)	選択	大矢　奈美	73
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	堤　静子	76
		会社法Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	白石　智則	21
		財務戦略　【他学科展開科目】	(2)	選択	長谷川　美千留	33

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	地域みらい学科	会社法Ⅰ　【他学科基幹科目】	(2)	選必	白石　智則	21
		地域の産業Ⅱ	(2)	選択	松田　英嗣	79
		地域経営論	(2)	選択	足達　健夫	53
		自然史・地理情報と地域創造	(2)	選択	三浦　英樹	82
		地域みらい特殊講義Ⅱ	(2)	選択	柏谷　至	85
		経営革新論Ⅰ	(2)	選択	生田　泰亮	88
		フィールドリサーチⅡ	(2)	選択	足達　健夫	–
					生田　泰亮	
					佐々木　てる	
					長岡　朋人	
					野坂　真	
					三浦　英樹	
					安田　公治	
					渡部　鮎美	
		財務会計論Ⅱ　【他学科展開科目】	(2)	選必	金子　輝雄	91
		マクロ経済学　【他学科展開科目】	(4)	選択	今　喜典	94

【注1】「生命の科学」は秋学期開講科目ですが、2025年度は春学期開講とします。秋学期は開講しませんので注意してください。

【注2】「経営情報論」は秋学期開講科目ですが、2025年度は春学期開講とします。秋学期は開講しませんので注意してください。

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」「1210～」で始まる学生）

（1）「財務会計論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（2）「監査論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「監査論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「監査論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（3）「自然史・地理情報と地域創造」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

（4）「経営革新論Ⅰ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

（5）「租税法」は、2020年度・2021年度入学カリキュラム「税務会計Ⅰ」の読替科目です。

目　　次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1180～」「1190～」で始まる学生）

（1）「財務会計論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（2）「金融経済学（4単位）」の履修について
①春学期開講の「金融経済学Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（3）「監査論（4単位）」の履修について
①春学期開講の「監査論Ⅰ（2単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「監査論Ⅱ（2単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（4）「自然史・地理情報と地域創造」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

（5）「経営革新論Ⅰ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

（6）「租税法」は、2020年度・2021年度入学カリキュラム「税務会計Ⅰ」の読替科目です。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
仏教の思想	4 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
松本知己 Matsumoto Tomomi	**時間：授業の前後など、適切な時間帯に。** **場所：教室、廊下、非常勤講師控室など、随所。**	講義

〔科目の概要〕

仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドで成立した宗教である。朝鮮半島や中国を経て日本に伝来して以来、社会の要請に伴い変容しつつ独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。

本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的な理解を目的として、その基本構造と、日本における受容と展開の多様性を学ぶ。

前半は、インド仏教の歴史を概観し、思想的展開を解説する。後半は、仏教文献の漢訳など、中国を中心とする漢字文化圏における受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しながら、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにする。随時、政治状況、文化事象との関連や、他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、信仰を前提とせずに、仏教を一つの思想、あるいは文化現象として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教への理解を深めることは、まずは自身のアイデンティティを確認することにつながる。

地域振興はもちろんのこと、経済学や経営学を学ぶという点でも、経済的な活動は人の営みに他ならない。したがって、人間という生き物についての理解は必須である。宗教は、人間の世界観や価値観の基盤をなすと共に、その願望や欲望の受け皿にもなってきたのであり、人間存在の合わせ鏡ともいえる文化現象である。信仰の有無に関わりなく、宗教を知ることで、それぞれの社会の基層を知ることができるといってよい。私たちは、日本の伝統的な宗教の思想構造を理解し、歴史を知ることで、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるようになるだろう。

〔科目の到達目標〕

・仏教という宗教が有する思想の基本的な構造を理解し、正しい日本語で記述できる。
・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解し、正しい日本語で記述できる。
・日本仏教の特質を、現代に生きる自分自身との関連で理解し、正しい日本語で記述できる。。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○	○			

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

受講者の理解を深めるため、随時学習内容のまとめを行う。

〔教科書〕

毎回資料を配付する。

〔指定図書〕

宮元啓一『わかる仏教史』（角川ソフィア文庫、2017）
末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』（新潮文庫、1996）

〔参考書〕

平川彰『インド・中国・日本　仏教通史』(新版)(春秋社、2006)

蓑輪顕量編『事典　日本の仏教』(吉川弘文館、2014)

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

3 分の 2 以上の出席を前提に、期末のレポート(60%)と、平常点(40%。毎回提出するリアクションペーパーのコメントや、理解度の確認など、授業への参加具合を重視する。)によって、総合的に評価する。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

宗教は人間性を全面的に反映した文化現象だが、その核心には思想がある。その基本構造を理解しないと、なかなか先へ進めない。予習は特に求めないが、簡単でもよいので事後の復習は行うよう、心がけてもらいたい。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):総説 内　容:講義の目的と概要、学習方法、評価基準等の説明 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):宗教類型論から見た仏教 内　容:仏教及びインドの宗教・思想とセム的一神教の比較 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教・思想① 内　容:インド宗教思想史概観 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教と思想② 内　容:バラモン教、ヒンドゥー教の思想と神々 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):仏教の成立 内　容:釈迦(ゴータマ・シッダールタ)の生涯、仏教の誕生 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):　初期仏教① 内　容:仏教思想の基本構造(仏教は何をめざすのか) 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教② 内　容:実践論(仏教者の修行) 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教③ 内　容:仏教教団の構成と戒律 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の成立 内　容:釈迦死後の教団分裂と諸部派の成立、展開 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の教理 内　容:部派の中で最も有力であり、現在も存在する「説一切有部」の思想 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):大乗仏教の起源と成立 内　容:思想運動としての大乗仏教、あるいは仏教の大衆化 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乗仏教」
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):大乗仏教経典の世界 内　容:紀元前後からインドで大量に作成された大乗仏教の経典群には何が書かれているのか 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乗仏教」2「中期大乗仏教」
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想① 内　容:大乗仏教の哲学的な基盤をなす「空」の思想の概要 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乗仏教の哲学」
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想② 内　容:『般若心経』を読んでみる 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乗仏教の哲学」
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想① 内　容:「空」の理論化、体系化を目指す唯識派の思想と実践 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乗仏教の哲学」
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想② 内　容:唯識思想の人間観 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乗仏教の哲学」
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):浄土教 内　容:阿弥陀仏信仰と浄土教の基本構造 教科書・指定図書
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):密教 内　容:密教をどのように理解すべきか。大乗仏教の思想的帰結と呪術の世界 教科書・指定図書　宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 4「密教と後期大乗仏教」
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):中国思想と仏教 内　容:儒教思想を基軸とする中国において、仏教はどのように受容されたのか 教科書・指定図書
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):中国仏教の特質 内　容:中国人による仏教の主体的な受容について 教科書・指定図書
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):日本天台の教学―最澄を中心に― 内　容:鎌倉仏教の母胎となった日本天台宗の成立と、その教学 教科書・指定図書　末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):日本の密教 内　容:空海の真言密教(東密)と天台密教(台密) 教科書・指定図書　末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想① 内　容:法然の浄土教思想(専修念仏の衝撃) 教科書・指定図書　末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」

第 24 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想② 内　容:法然の門流と親鸞(浄土真宗)の思想 教科書・指定図書　　末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想③ 内　容:日本の浄土教における二つの流れ(観念・観想の念仏と称名念仏) 教科書・指定図書　末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想④ 内　容:日蓮の法華教学(唱題思想) 教科書・指定図書　末木文美士『日本仏教史』第Ⅳ章「鎌倉仏教の諸相」
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑤ 内　容:禅とは何か。 教科書・指定図書
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑥ 内　容:栄西(臨済宗)と道元(曹洞宗) 教科書・指定図書
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):近代の知識人と仏教 内　容:夏目漱石と仏教。田中智学の日蓮主義と宮沢賢治。 教科書・指定図書
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):全体のまとめ 内　容:講義の総括と補足 教科書・指定図書
試　験	期末レポートの提出。試験は実施しない。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
メディアとジャーナリズム	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
河田　喜照　他	**時間:** **場所:**	講義

〔科目の概要〕

・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。新聞記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。

・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点について考え、メディアリテラシー育成にこれまで以上のウエートを置く。

・新聞を読む機会をもうけ、時事問題に触れてもらう。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。

一方で、ネット社会の進展により、情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。

〔科目の到達目標〕

中間目標

・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。

・現場の活動を知ることで、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらう。

・報道活動が抱える問題点について理解する。

・ネットメディアの進展とその落とし穴について考えてもらう。

最終目標

・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。

・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・　健全な社会を維持する上でジャーナリズムが果たしている役割を理解してもらうことを一番の目標に置いた。

・ネット社会に即した情報リテラシーの向上に向け、生成AIによる虚偽情報など新しい事象にも触れていきたい。

・新聞をもとに時事的な内容を扱った点が好評だった。今後も広く時事問題を扱っていきたい。

・メディアとジャーナリズムについてもっと深く学びたいとの声があったため、より深みのある内容にしていくよう努める。

〔教科書〕 特になし

〔指定図書〕 特になし

〔参考書〕 毎回、当日付の新聞を配布する。

〔前提科目〕
特になし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
中間リポートおよび最終試験を課す。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえるよう努力する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。
・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。
細かい知識を覚えることは要求しない。授業のテーマを通じて自分で考える姿勢を大事にしてほしい。

〔実務経歴〕
新聞記者、広告担当者、NIE(教育と新聞)担当者など

授業スケジュール

第1回	テーマ(はじめに): 内　容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について伝え、国内・県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。 教科書・指定図書　なし
第2回	テーマ(NIB 実践1　よく分かる新聞の読み方): 内　容: NIB(ニュースペーパー・イン・ビジネス)は、仕事で役立つ新聞の活用法を紹介する取り組み。初回のテーマは新聞の読み方。新聞の見出しや紙面レイアウトにも意味、役割がある。紙面づくりのルールが分かれば、より面白く新聞を読むことができる。
第3回	テーマ(NIB 実践2　記事から学ぶ文章術): 内　容: 新聞記者はどんなことを考えながら記事を書いているのか。取材をする上で注意していることは何か。読まれる記事とはどんな記事か。紙面に掲載された記事を使って考え、簡潔な文章を書くコツを紹介する。 教科書・指定図書　なし
第4回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内　容: 近代ジャーナリズムの成立について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察。明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみなど。 教科書・指定図書　なし

第 5 回	テーマ（紙とデジタル～ネット報道の現場から）： 内　容： 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフー、LINE など外部配信、SNSなど。生成 AI とメディア。フェークを見抜くには。「偏りのない情報摂取」のために　ほか。 教科書・指定図書　なし
第 6 回	テーマ（ネット情報とメディアリテラシー）： 内　容： フェイクニュース、ディスインフォーメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件など具体的な例をもとに、ネット情報の危うい面を認識する。また SNS の使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考える。 教科書・指定図書　なし
第 7 回	テーマ（住民に寄り添う地方紙の役割） 内　容： 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。 教科書・指定図書　なし
第 8 回	テーマ （広告の役割と機能～事例紹介と営業について～） 内容：「もし、広告がなかったら？」「広告もニュースである」など、新聞やテレビの広告の分類、役割と機能を考える。事例を紹介しつつ、対象や背景、目的なども伝え、広告をより身近なものとしてとらえてもらう。新聞社における広告担当部門の組織、営業についても触れ、職業としての業務も理解してもらう。 教科書・指定図書　なし
第 9 回	テーマ(事件・事故と司法手続き): 内　容： 日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書　なし
第 10 回	テーマ（テレビ、ラジオの報道）： 内　容： 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第 4 条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。 教科書・指定図書　なし
第 11 回	テーマ（ネットの進展がもたらす変化）： 内　容： ネット配信の普及によってメディアの地殻変動が起きている。テレビ番組のネット同時配信に加え、TVer や NHK＋など再配信も当たり前になった。Netflix などオンデマンド配信の進展、存在感を増す Youtube などを取り上げながら激変するメディア環境について考える。 教科書・指定図書　なし
第 12 回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内容： 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事や番組の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きた「ニュース砂漠」と呼ばれる現象などを例に地域ジャーナリズムの役割を考える。 教科書・指定図書　なし

第 13 回	テーマ（青森県と基地）： 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。ロシアによるウクライナ侵略や台湾問題など「新冷戦時代」の到来が叫ばれる中、その実態を説明し、マスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。 内　容：教科書・指定図書　なし
第 14 回	テーマ（ジャーナリズムの問題点とジレンマ）： 内　容：近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考える。 教科書・指定図書　なし
第 15 回	テーマ(ジャーナリズムが守るもの) 内　容：デジタルプラットフォームや SNS がニュース媒体として台頭し玉石混交の情報があふれる中、「正しく正確な情報」「社会に資する建設的な情報」を選別して提供する必要性がますます増大している。社会の公共資本としてのメディアとジャーナリズムをどう守り、新しい時代に向けて再構築をしていくべきかを考える。 教科書・指定図書　なし
試　験	中間リポートおよび期末試験を課す

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
生命の科学	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
永長　一茂	**時間：** 授業終了後、必要に応じて **場所：** 講義室	講義

〔科目の概要〕

食事、医療、環境、エネルギー。私たちの日常は生命に溢れている。「生命の科学」では、生活に深くかかわる生命を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野に触れつつ、生物や生命科学への理解を深めることを目標とした授業を行う。まずは生物・生命科学を好きになってもらいたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

たとえばあなたがレストランをはじめ、目玉商品として、どのお店でも扱っていない「レアハンバーグ」を開発したとしよう。残念ながら、よほど特別な処理をしない限り「レアハンバーグ」を売ることはできない。専門知識を持たなくとも、教養レベルの生命科学の知識があれば、レアステーキ OK でレアハンバーグがダメ理由はすぐにわかる。これが本項目の問いへの答えである。

教養科目は、専門科目で学んだ知識やスキルを活用する際に役に立つ。そして、社会人になり年齢を重ねるにつれその重要さに気付くことになる。正しい手の洗い方の根拠は？少子高齢化問題の解決法は？命って何？といった日常の問題から社会問題、哲学的な問題まで、生命にまつわる疑問は尽きない。それに応える「生命の科学」での学びは、間違いなく人生を豊かにし、他のすべての科目での学びと有機的に結びつき、相乗効果を発揮するであろう。

〔科目の到達目標〕

社会生活を営む上で必要な、生物に関する基本的な知識を身に着け、それらを応用できるようになること

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○			

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

該当せず

〔教科書〕

なし

〔指定図書〕

必要に応じて授業で紹介する

〔参考書〕

必要に応じて授業で紹介する

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

小レポート：　70%（毎授業出す課題を、Google Classroom で提出）

授業参加：　30%（授業中に手を挙げてもらう等の「リアクション」の有無で評価）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

日常生活に役立つ「生きた知識」を得てもらう事を目指した授業をする。学生の興味や理解度の把握のために、授業中に手を挙げてもらうなどのアクションを求めることになるが、学生にはリラックスし積極的に授業に参加してほしい。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内　容: 教養科目「生命の科学」で学べる事、授業で求める事、評価基準等を解説する。レアハンバーグを提供してはいけない理由も解説する。 教科書・指定図書: なし
第2回	テーマ(何を学ぶか): 日常生活に溢れる生命1 内　容: 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第3回	テーマ(何を学ぶか): 日常生活に溢れる生命2 内　容: 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第4回	テーマ(何を学ぶか): 日常生活に溢れる生命3 内　容: 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第5回	テーマ(何を学ぶか): 日常生活に溢れる生命4 内　容: 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第6回	テーマ(何を学ぶか): 生命の始まりと進化1 内　容: 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第7回	テーマ(何を学ぶか): 生命の始まりと進化2 内　容: 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第8回	テーマ(何を学ぶか): 生命の始まりと進化3 内　容: 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介

第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 生命の始まりと進化 4 内　容: 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 1 内　容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 2 内　容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 3 内　容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 4 内　容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 5 内　容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): まとめと振り返り 内　容: 第 2 回から第 14 回の内容を振り返り、教養としての「生命の科学」の必要性を解説する 教科書・指定図書　必要に応じて授業で紹介
試　験	期末試験は行わない。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
民法	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小 林 直 樹	**時間：** 適宜（※要事前連絡） **場所：** 612 研究室	講　義

〔科目の概要〕

私たちは、法と無関係に生活することはできません。つまり、日常生活のあらゆる場面が法と結びついているということです。そのため、法に則って行動することでトラブルを回避し、安心して生活をおくることができます。しかし、法から逸脱するならば、私たちは何かしらのトラブルに巻き込まれ、人の権利を侵害する加害者となり、反対に、権利を侵害される被害者になることがあります。そのため、社会経験の浅い若い人ほど、法を学ぶ意義は大いにあります。なかでも、私たちの生活に関する法が民法ですが、その知識を身につけることは日常生活で大いに役立ちます。教養としての民法の知識を身につけ、「考え方」を修得することが、安心や安全な生活につながるといえます。

本講義では、教養としての民法の知識を修得し、その「考え方」を修得することを目的とします。その際、報道番組や新聞記事等の具体的事例を通じて理解を深め、実生活で教養としての民法の知識や「考え方」を実践できるようになることを目的とします。

なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もありえます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本講義の目標は、まずもって教養としての法または民法の「考え方」を修得することです。ただ、法というものは、時代や国・地域によって変化します。具体的には、日々の社会現象（動物の福祉の問題、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方をめぐる問題、情報化社会における個人情報保護の問題、AI の進化、企業と人権問題等）に影響を受けてダイナミックに変化します。そのため、法のバックグラウンドとなる、自然科学、人文科学を学ぶことも必要となります。とりわけ、多様化する社会においては、興味関心のある分野を学びつつ、併せて法または民法の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、バランスを欠いた単眼的見方ではなく、バランスのとれた複眼的見方を得ることができると考えています。

〔科目の到達目標〕

4 点（①“法や民法の基本的な用語等を理解し、説明できるようになる”、②“法や民法の「考え方」を理解する”、③“法や民法の「考え方」を理解したうえで、それを説明できるようになる”、④“①～③をもとに、社会における法的な問題について、自分の考えを自分の言葉で説明できるようになる”）を重視し、評価をします。

A 80 点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している
B 70 点以上 80 点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している
C 60 点以上 70 点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している
D 50 点以上 60 点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している
F 50 点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○		○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

視聴覚教材を用いて講義内容の理解促進に努め、特に、学ぶ内容が社会と密接に結びつき、自分自身の問題であることを理解できるよう講義を組み立ててきました。授業評価は、その点について肯定的評価であったと理解しています。

授業評価では、毎回配布するレジュメの記入枠について小さいとの意見がありましたが、レジュメのサイズと用紙の配布を考慮してやや小さめに作成しています。紙資源を考慮すると基本的には枠のサイズの変更は最小限にとどめたいと考えていますが、可能な限りレジュメの枚数を増やすなり改善が可能かと思います。

そのほか、誤字等の記載ミスの多さの指摘も受けており、可能な限り丁寧な見直しと訂正のアナウンスに努めようと思います。

〔教科書〕
必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。

〔指定図書〕
渡邊力ほか『民法入門ノート〔第 2 版〕』(法律文化社、2024)

〔参考書〕
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門〔第 5 版〕』(日本経済新聞出版、2024)、潮見佳男ほか『18 歳からはじめる民法〔第 5 版〕』(法律文化社、2023)、潮見佳男『民法(全)〔第 3 版〕』(有斐閣、2022)、池田真朗ほか『民法 Visual Materials〔第 3 版〕』(有斐閣、2021)、吉田利宏『元法制局キャリアが教える 民法を読む技術・学ぶ技術』(ダイヤモンド社、2021)、弥永真生『法律学習マニュアル〔第 4 版〕』(有斐閣、2016)。

〔前提科目〕
「法律と人間」を既に履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
前記「科目の到達目標」で記したとおり、用語の理解にとどまらず、多様な「考え方」を理解し、自分の言葉で説明することが本講義の目指すところです。なお、講義に出席しただけでは、学んだことが知識として定着することは困難と考えます。1 回の講義につき予習・復習を行い、全 30 回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。すなわち、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます。なお、原則、定期試験 100%により評価を行いますが、欠席が 3 分の 1 を超えたとき受験を認めません。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
本講義で学ぶ内容は、社会の出来事と無関係ではない法に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、私たちを取り巻く社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、法または民法を学ぶことにつながるからです。

また、前記のとおり、講義中、受講生に質問することが少なくありません (解答の正解・不正解は不問)。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言や応答を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して受け身になるのではなく、教員とのコミュニケーションや他の受講生とのコミュニケーションを積極的におこない、講義が自己の成長発達の場となることを意識して受講してほしいと考えます。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション――社会における法・法律の役割―― 内　容:民法が私たちの生活とどのようにかかわるのかについて、物語を素材にして理解します。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):民法とは何か① 内　容:民法について、その役割と目的について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):民法とは何か② 内　容:民法の歴史や解釈などについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。

第 4 回	テーマ(何を学ぶか):総則① 内　容:権利を有するのは何か。「権利能力」や「物」などについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):総則② 内　容:「信義則」や「権利の濫用」などについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):総則③ 内　容:団体も「人」として扱われるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):総則④ 内　容: 「時効」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):総則⑤ 内　容:「法律行為」や「代理制度」などについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):物権法① 内　容:物に対する権利の性質や種類について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):物権法② 内　容:他人の物が邪魔で自分の物を使えない時どのような主張ができるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):物権法③ 内　容:物を買ったらいつから自分の物になったといえるのかという「物権変動」を学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):物権法④ 内　容:土地を買ったことを登記で公示しないとどうなるのかといった、「公示の原則」などについて学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):担保物権法① 内　容:貸したお金を確実に返してもらうにはどうすればよいのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):担保物権法② 内　容:民法の規定にある「担保物権」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):債権総論① 内　容:買った物が受け取る前に壊れていたなど、「契約の双務性」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第16回	テーマ(何を学ぶか):債権総論② 内　容:商品を買った相手が代金を払わないなど、「契約の不履行」の対処について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):債権総論③ 内　容:「責任財産の保全」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。

第 18 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論① 内　容:「契約」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論② 内　容:契約を結ぶと絶対に守らなければならないかなど、「契約の有効性」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論③ 内　容:うその契約への対処、間違えたり騙されたりした契約への対処について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論④ 内　容:物を売ったり買ったりすることとはどういうことかなど、「売買契約」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑤ 内　容: 貸したお金が返ってこなかったらどうするのかなど、「消費貸借契約」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑥ 内　容:家を借りるなど「賃貸借契約」について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑦ 内　容:「不法行為」および損害賠償を請求できる場合について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑧ 内　容:損害賠償を請求された被告がどのような反論をするのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑨ 内　容:自分が加害者でなくても責任を負うことはあるのかなどを学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):親族① 内　容:結婚・離婚は自由にできるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):親族② 内　容:親子関係はどのように決まるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):相続① 内　容:家族が亡くなったとき、その遺産はどうなるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):相続② 内　容:遺言で自由に何でも決めることはできるのか、について学びます。 教科書・指定図書　該当ページについて適宜触れます。
試　験	筆記試験を実施します。講義中に扱った範囲から出題します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
事業論Ⅱ	1 単位	キャリア教育科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小田切　勇治 Odagiri　Yuji	**時間：** ー **場所：** ー	講義

〔科目の概要〕

この講義では、流通業が集積する協同組合青森総合卸センター（以下：問屋町）に勤務している講師が、実際に問屋町で営業している企業と連携してその業務内容を紹介し、それぞれの企業の取り組みを通じて、地域における流通業の役割や次世代につなげるためのさまざまな方策を考える。また自身の日々の生活との関連についてあらためて考え、自身のキャリア形成に繋げることを目的とする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

事業論Ⅰ、Ⅲ、自治行政政策論等とともに各業界・業種の理解を深め、さらにインターンシップに繋げることで自身のキャリア形成に役立てることができる。

〔科目の到達目標〕

中間目標

・問屋町の歴史、目的、事業、成果などの概要を説明できる。

・問屋町会員企業について、業種ごとの業務概要を説明できる。

最終目標

・流通業及び問屋町の役割を理解し、自身のキャリア形成に役立てる。

成績評価基準

成績は各回の授業内レポート及び最終レポート課題で評価します。

A　レポート評価　80 点以上

B　レポート評価　70 点以上 80 点未満

C　レポート評価　60 点以上 70 点未満

D　レポート評価　50％以上 60 点未満

F　レポート評価　50％未満

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○			

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

流通業及び問屋町について、スライド資料の見せ方も含めて、できるだけわかりやすく講義したいと思います。

〔教科書〕

配布資料

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

協同組合青森総合卸センターホームページ

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

毎回の授業内レポート 10%×7 回、最終レポート課題 2 本×15%＝30%

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

キャリア科目の講義として、普段みなさんが意識しない「流通業」について、実際に流通業を営む経営者及び経営幹部と共に実学を中心に講義を行い、今後のキャリア形成にも役立つような授業を心掛けます。

7コマの出席を前提として最終レポート課題を設定しているので、7コマ出席できる学生の履修を望みます。特に1コマ目と7コマ目は最終レポートに大きく影響するので出席が必須です。1 コマ目、7 コマ目に出席できない場合は履修しないことをお勧めいたします。

※参考 2024 年度協力企業

丸大堀内㈱【食料品・酒類卸】

㈱角弘【建築資材卸】

㈱マツダアンフィニ青森【自動車小売・自動車整備業】

㈱マエダ【小売業】

大青工業㈱【冷熱機器製造業】

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業について 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ① 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ② 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ③ 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ④ 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ⑤ 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 協同組合青森総合卸センターの歴史、目的、事業、これまでの総括 教科書・指定図書
試　験	課題レポート(1,600 文字×2種類)を課す

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
グローバル経営論	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
Nguyen Chi Nghia グェン　チ　ギア	時間: 場所:	講義

〔科目の概要〕

本講義では、ドキュメンタリーの鑑賞、ディスカッション、教員の説明などを通じて、グローバルなコンテクストにおいて企業が利益を追求しつつ、環境問題や社会問題といった世界的な課題を解決できるようなグローバル経営について学ぶ。学生の皆さんには、教員の説明を受けるだけでなく、授業内容の中で関心のある課題を選び、さらに探究することを通じて、学びを深めることが求められる。このような動態的な学習を通じて、グローバル経営に必要な実践的なスキル、知識、そして社会に即応できる能力を持った人材を育成することを目指す。将来的に企業や行政機関などの国際事業に関わる仕事を目指す学生も歓迎する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

担当教員は経営学だけではなく心理学、行動経済学や教育経済学の理論も参考にして講義を行うこともある。そのため、本講義では様々な学問の理論を活用し、グローバル経営をより楽しく学ぶことができる。

〔科目の到達目標〕

中間目標:グローバル経営の特徴と課題を説明できるようになる。

最終目標:グローバル経営の特徴と課題を理解し、さらに様々な組織のグローバル経営に関する課題や戦略構築に必要なスキルを修得する。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○	○	○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

特になし。

〔教科書〕

特になし。

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕Prahalad, C. K. (2005). The Fortune at the Bottom of the Pyramid. Upper Saddle River, NJ: Wharton School Publishing(＝2005 スカイライトコンサルティング訳 『ネクスト・マーケット――「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略』、英治出版→2010 増補改訂版)

〔前提科目〕

特に指定しない。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

事例研究の成果(40%)と小テスト(60%)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

自分自身の成長のために授業に一生懸命に参加してください。

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化の功罪とグローバル経営の特徴・課題(1) 内　容:・グローバル経営の概要について学ぶ。 ・グローバル化が与える悪影響の特徴、仕組みとそれに関係するグローバル経営の特徴について学ぶ。 講義レジュメ
第2回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化の功罪とグローバル経営の特徴・課題(2) 内　容:グローバル化が与える好影響の特徴、仕組みとそれに関係するグローバル経営の特徴、課題について学ぶ。 講義レジュメ
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済ピラミッドの底辺に眠る市場の開拓(1) 内　容:経済ピラミッドの底辺に眠る市場の特徴、従来の市場との相違点について学ぶ。 講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済ピラミッドの底辺に眠る市場の開拓(2) 内　容:経済ピラミッドの底辺に眠る市場を開拓するグローバル経営、その課題と解決方法について学ぶ。 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):世界課題とグローバル経営の融合(1) 内　容:市場開拓を超えるグローバル経営の真相を事例で探究する。 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):世界課題とグローバル経営の融合(2) 内　容:事例でいかに世界課題とグローバル経営を融合させることができるのかについて学ぶ。 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営人材の真相(1) 内　容:グローバル経営人材にかかわる誤解を事例で再確認する。 講義レジュメ

第 8 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営人材の真相(2) 内　容:ゲームでグローバル経営人材に求められる資質・能力を学ぶ。 講義レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):多様な分野におけるグローバル経営の探究(1) 内　容:教育分野にかかわるグローバル経営を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):多様な分野におけるグローバル経営の探究(2) 内　容:福祉分野にかかわるグローバル経営を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):地域とグローバル経営(1) 内　容:地域経済とグローバル経営の関係性を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):地域とグローバル経営(2) 内　容:地域福祉とグローバル経営の関係性を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営の事例研究(1) 内　容:担当教員の指導を参考にグローバル経営にかかわる課題を選び、更に探究していく(授業中の作業)。 講義レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営の事例研究(2) 内　容:関心のあるグローバル経営の課題に関する探究結果を担当教員に報告し、アドバイスを参考に更に探究していく(授業中の作業)。 講義レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総括と小テスト 内　容: ・本講義で説明された内容のまとめ、補足 ・小テスト
試　験	なし

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
会社法Ⅰ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
白石 智則	時間: 場所:	講義

〔科目の概要〕

本講では、「会社法２」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式会社の機関）について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。

〔科目の到達目標〕

「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。具体的には、後期の「会社法Ⅱ」とあわせて、行政書士試験、司法書士試験、公認会計士試験等の「会社法」（または「企業法」）の択一式試験に解答できるレベルに到達することを目標とします。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○			○	○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続き拙著の教科書をスクリーンに投影しながら講義を行います。

〔教科書〕

拙著 『会社法の教科書 第 4 版』（2025 年）

（流通ルートに乗せていない自費出版の教科書です。公立大の生協で購入してください。）

〔指定図書〕

な し

〔参考書〕

中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』（有斐閣、第 2 版、2021 年）

江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第 9 版、2024 年）

高橋美加ほか『会社法』（弘文堂、第 3 版、2020 年）

田中亘『会社法』（東京大学出版会、第 4 版、2023 年）

岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』（有斐閣、第 4 版、2021 年）

そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。

〔前提科目〕

な　し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

授業内試験（小テスト（10%）と期末試験（90%））により評価します。

小テストを各講義日に実施します（全7回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、指定のURLから受験してください。

期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の３分の２以上出席していない者は失格とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

熱意をもって受講してくれることを期待します。

〔実務経歴〕

な　し

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）:　総論（1） 内　容：企業、会社 教科書・指定図書　教科書（第１章ＩＩ）
第２回	テーマ（何を学ぶか）: 総論（2） 内　容：会社の種類 教科書・指定図書　教科書（第１章Ⅲ）
第３回	テーマ（何を学ぶか）: 総論（3） 内　容：株式会社の特徴、上場会社、会社法 教科書・指定図書　教科書（第１章Ⅳ～Ⅵ）
第４回	テーマ（何を学ぶか）: 株式会社の機関（1） 内　容：機関とその設計 教科書・指定図書　教科書（第２章Ｉ）
第５回	テーマ（何を学ぶか）: 株式会社の機関（2） 内　容：株主総会とは、株主総会の招集、株主提案 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅱ１～３）
第６回	テーマ（何を学ぶか）: 株式会社の機関（3） 内　容：一株一議決権の原則とその例外、議決権の行使方法 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅱ４・５）

第７回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（4） 内　容：株主総会の議事・決議、株主の権利行使に関する利益供与、株主総会決議の効力を争う訴え 教科書・指定図書 教科書（第２章Ⅱ６～８）
第８回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（5） 内　容：取締役とは 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ１）
第９回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（6） 内　容：取締役会、代表取締役 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ２・３）
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（7） 内　容：取締役の義務 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ４）
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（8） 内　容：取締役の報酬、監査役 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅲ５・Ⅳ１・２）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（9） 内　容：監査役会、会計監査人、会計参与 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅳ３・Ⅴ・Ⅵ）
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（10） 内　容：指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅶ・Ⅷ）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：株式会社の機関（11） 内　容：役員等の会社に対する責任、株主代表訴訟 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅸ１～３）
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（12） 内　容：役員等の会社に対する責任の免除、役員等の第三者に対する責任 教科書・指定図書　教科書（第２章Ⅸ４・５）
試　験	第15回の講義の日に定期試験を行います

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
組織学習論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
長谷川直樹	**時間:**授業内で案内します。 **場所:**501 研究室	講義

〔科目の概要〕

組織学習論は、1960 年代から研究が開始された比較的新しい学問領域です。

組織社会と呼ばれる現代において、個人の学習、成長だけでなく、組織も学習し成長する必要があります。組織が存続し発展するために、協働を確立し組織の知識をマネジメントすることが組織学習である。組織の体系的な発展を促進する方法が組織学習論になります。特に、日本の組織は生産性が低いことが問題となっている。組織学習は、組織を適切に機能させる組織マネジメント手法の一つである。

授業は、教科書を用いて学修していきます。教科書の中で取り上げられる組織学習論に関するいくつかの主要理論については、より詳しく説明します。授業方法は、講義だけでなく、グループ・ディスカッションも行います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

組織学習論は、組織論の一分野です。組織論と関連して、働く人々の協働の確立とその成果の効率的にすることが組織学習になります。今後、組織で働く人にとって学ぶべき分野です。

組織学習論は、組織を対象とした学問であるマネジメント論や経営戦略論などと関連を有しています。

〔科目の到達目標〕

組織学習論の研究潮流を体系的に理解し、説明できるようになる。

組織学習論の主要理論について理解し、自分なりの考えを示すことができるようになる。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○			○		○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

安藤史江『コア・テキスト組織学習』、新世社、2019 年。

〔指定図書〕

〔参考書〕

ハーバート・サイモン『経営行動－経営組織における意思決定過程の研究』、ダイヤモンド社、2009年。

マーチ&サイモン『オーガニゼーションズ』、ダイヤモンド社、2014年。

マーチ&オルセン『組織におけるあいまいさと決定』、有斐閣、1986年。

野中&竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社、2020年。

〔前提科目〕

組織論

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

学期末試験の結果(60%)

課題(小テスト・レポート・リアクションペーパー)(40%)

学期末試験の内容等については，試験前の授業時に説明します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

関連用語について調べること(事前学習)。

授業に出席し、ノートを取ること(授業中)。グループワークの際は、積極的に参加(発言)すること。

授業後に200字程度の要約を作ること(事後学習)。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内　容:講義の進め方について説明する。講義の内容、目的について説明する。評価方法について説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第2回	テーマ(何を学ぶか):組織学習論を学ぶ 内　容:組織学習の定義について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか):カーネギー学派の組織行動論 内　容:サイモン&マーチを中心としたカーネギー学派の組織行動論について説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第4回	テーマ(何を学ぶか):サイクルで捉える組織学習 内　容:マーチを中心とした組織学習のサイクルについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第2章
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織学習のメカニズム 内　容:組織の学習効果を高める方法と、学習活動に伴うジレンマについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第3章4章
第6回	テーマ(何を学ぶか):学習のジレンマを克服するために(1) 内　容:クリス・アージリスのダブル・ループ学習について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第5章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):学習のジレンマを克服するために(2) 内　容:ジェームズ・マーチの知の活用・知の探索について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 5 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):個人の学習とメンター 内　容:個人の学習とマネジメントについてアブラハム・ザレズニックの理論を中心に説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):情報収集の役割としてのマネジャー 内　容:ヘンリー・ミンツバーグの管理者行動論について説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):知識創造 内　容:野中&竹内の SECI モデルについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):知識の獲得 内　容:経験と密接な関係がある知識の獲得について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 6 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):知識の移転 内　容:個人学習が組織学習になる移転について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 7 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):情報の解釈 内　容:情報解釈のシステムについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 8 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):組織の記憶 内　容:組織の記憶について説明します。 教科書・指定図書: 『コア・テキスト組織学習』第 9 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):組織学習のこれからと全体のまとめ 内　容:今後の組織学習論の展開について説明します。これまでの講義で重要な点を整理します。期末テストの説明をします。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 10 章
試　験	期末テストを行います。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
監査論Ⅰ	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
紫関　正博 Shiseki　Masahiro	時間：授業の開始時に提示 場所：研究室（512）	講義

〔科目の概要〕

企業の外部に会計情報を提供する企業の経営者は，投資家，株主等をはじめとする利害関係者に，企業の財務状況や経営成績を報告する。その際，企業は利害関係者に向けて，会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成および公表している。このとき，企業の作成した財務諸表が適正であるのかを監査が保証することによって，利害関係者は初めて信頼できる企業の財務情報を入手することができる。このように，監査（通常，「財務諸表監査」という）は，企業が作成した財務諸表上の用語と数値（金額）が正しいものであるのかをチェックし，投資家や株主等をはじめとする財務諸表の利用者を保護するために証券市場の信頼を確立する社会制度となっている。しかしながら，こうした社会制度としての監査があるにもかかわらず，なぜ会計不正はなくならないのだろうか。

「監査論Ⅰ」では，監査の理論と制度的側面を中心に，監査目的と監査概念，（財務諸表）監査制度を学ぶ。（財務諸表）監査制度の単元では，日本の法定監査制度（会社法監査制度，金融商品取引法監査制度）と監査規範としての監査基準を主なテーマとして取り上げる。講義では，会計不正の事例も取り上げ，監査の課題も考えながら，現代の社会における財務諸表監査の役割を学習する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・他の科目との関連付け

監査の対象は財務情報であることから，この科目は，他の会計関連科目（会計学基礎論，財務会計論Ⅰ・Ⅱ，財務分析Ⅰ・Ⅱ，財務管理など）の学習を再認識し，さらには理解を深めることにもつながる。

・学ぶ必要性と学ぶことの意義

会計はビジネスの言語として，いまやビジネスパーソンに必須の知識となっている。したがって，（財務諸表）監査制度を理解することは，会計文書を公表することが社会的にどのような意義を持っているのかを考える上で有益である。さらに，近年では，内部統制が制度化され，ビジネスの現場に監査が登場する場面も増えている。このことからも，監査法人で働く会計専門職業人のみならず，財務諸表を作成する側の企業のビジネスパーソンも，会計と監査の関係を十分に理解する必要があることが窺える。

〔科目の到達目標〕

（中間目標）監査の基礎的な理論と（財務諸表）監査の仕組みを習得する。

（最終目標）日本の法定監査制度を中心とした監査制度と監査の歴史的な展開を学習し，現代の社会における財務諸表監査の役割に対する理解を深め，さらには監査の課題を考える。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

声が聞き取りづらいという回答が複数あったので，説明の仕方や話し方の工夫に努め，マイクを調整し，しっかりと音声を伝え，聞こえやすくするように心掛けます。また，スライドの提示についても，配慮します。

〔教科書〕

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論（九訂版）』，同文舘出版，2022 年。

〔指定図書〕

山浦久司 著『監査論テキスト〔第 9 版〕』，中央経済社，2024 年。

〔参考書〕

長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門（第 6 版）』，中央経済社，2024 年。

蟹江 章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論（第 7 版）』，中央経済社，2024 年。

〔前提科目〕

前提科目はなし。「会計学基礎論」，「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」（できれば他の会計関連科目も）を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・授業の参加度を確認するため，3～5 回程度，小課題を実施する。また，期末試験の他に，小テストを行う。小テストの実施日は，授業内および掲示で伝達するので，注意すること。

・評価は，小課題（10%），小テスト（30%），期末試験（60%）による。なお，直近のビジネス会計検定試験の成果（合否）を，若干成績に加味して評価します。

（評価）

A: 80%以上	GPA	4.00
B: 70%～80%未満		3.00
C: 60%～70%未満		2.00
D: 50%～60%未満		1.00
F: 50%未満		0.00

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・初回の授業の際に，評価方法の詳細を説明するので，必ず出席すること。

・受講生の学習理解度，授業の状況などにより，授業スケジュールに変更が生じる場合もあり得ます。

・「監査論Ⅰ」の講義では，受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち，会計と監査がどのような関係にあるのかを考えてほしい。

・授業では，監査固有の専門用語が登場するので，覚えることも多い。理解したことを定着させるためにも，予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には教科書，講義レジュメを読み，授業に出席すること。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）：監査とは何か① 内　容：ガイダンス，監査の定義 教科書　第1章，講義レジュメ
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：監査とは何か② 内　容：財務諸表監査の意義と監査の生成要因 教科書　第1章，講義レジュメ
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：監査のフレームワーク① 内　容：監査の種類 教科書　第1章，講義レジュメ

第 4 回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内　容:監査人の独立性 教科書　第1章，講義レジュメ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内　容:監査の経済的機能 教科書　第1章，講義レジュメ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内　容:イギリスとアメリカ・ドイツにおける監査の生成と展開 教科書　第2章，講義レジュメ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内　容:日本の会社法監査(1)　会社法監査制度の生成と展開 教科書　第2章，講義レジュメ
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内　容:日本の会社法監査(2)　会社法監査制度の意義と内容 教科書　第2章，講義レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内　容:日本の金融商品取引法監査(1)　金融商品取引法監査制度の生成と展開 教科書　第2章，講義レジュメ
第 10 回	(何を学ぶか):監査制度⑤ 内　容:日本の金融商品取引法監査(2)　金融商品取引法監査制度の意義と内容 教科書　第2章，講義レジュメ
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内　容:監査規範の意義，アメリカの監査基準の生成と展開 教科書　第3章，講義レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内　容:日本の監査基準(1)　監査基準の生成と展開 教科書　第3章，講義レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内　容:日本の監査基準(2)　監査基準の改訂と新設 教科書　第3章，講義レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):会計監査の事例 内　容:会計不正事件のケーススタディ 講義レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内　容:講義内容の総括 教科書，講義レジュメ
試　験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
租　税　法	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄	**時間:**　アナウンスします **場所:**　513 研究室	講 義

〔科目の概要〕

「103 万円の壁」って？

わが国には約 50 種類の税がありますが、その中で最も重要かつ基本的な税が所得税です。所得税は消費税と並んで私たちの日常生活に密接にかかわっていますので、もはや社会人の一般常識と考えてください。

そもそも、税金がなぜ存在するのか。社会保険料との違いは何か。税金がどのように使われているのか。税金を払わなかったらどうなるのか。これらのことを知っていますか？

授業では、初めに、税の目的、財政上のウエイト、租税公平主義や租税法律主義といった基本原則等を一通り学んで、徐々に所得税の学修へと進みます。所得金額および税額の計算をマスターしてもらうだけでなく、適宜、租税の歴史や税務裁判事例を織り込んで、租税法の解釈ならびに租税法学を学んでいただきたいと考えています。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

- 所得の確定申告はもちろん、給与から天引きされる所得税・住民税等の仕組みを理解するとともに、ひとりの「納税者」という視点で、社会を見つめることができます。
- 会計学基礎論で学んだ会計処理の意味が理解できます。というのも基礎的な簿記は所得税法を前提としているからです。併せて、節税のタックス・プランニングを学べます。
- 同じ所得課税である法人税の理解に役立ちます。「法人成り」、「欠損金目当ての M&A」、「所得の海外移転」、企業の経営戦略には税務の側面を見逃せません。

〔科目の到達目標〕

＜中間目標＞　全国経理学校協会主催「税務会計検定試験（所得税法）」3級合格レベル。

＜最終目標＞　同　2 級合格レベル。

ファイナンシャル・プランニング技能士試験、税理士試験や公認会計士試験も視野に入れています。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

数名ですが、「練習問題を解く時間を多くとってほしい。解説を丁寧にやってほしい。」という要望が見られますのでなるべく配慮いたします。

〔教科書〕　全国経理学校協会編『演習　所得税法　＜最新版＞』清文社

〔指定図書〕　企業分析研究会編『現代日本企業の企業分析』新日本出版　2018 年

〔参考書〕　諸富　徹　著『税という社会の仕組み』筑摩書房　2024 年

〔前提科目〕

特にありません。「憲法概論」や「財政学」が参考になります。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

出席カード:ミニッツペーパーとして重要な用語・計算の確認テストを行います。（10%）

レポート課題:税務会計検定試験の過去問等 （10%）

期末試験:税務会計検定試験の所得税法　2級程度　＜教科書の持ち込み可＞ （80%）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教科書の章末や巻末の練習問題に取り組みましょう。

〔実務経歴〕　銀行業・税理士事務所

授 業 スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスおよび税とは 内　容: 税金の意義・根拠・目的・分類、納税の義務の根拠、専門用語の解説等。 国債の発行残高の推移、消費税率と所得税率の関係について 教科書・指定図書　配布プリント
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):租税法の基本原則と所得税のあらまし 内　容: 租税法律主義と租税公平主義、日本政府の歳入と歳出の状況、所得税のあらまし 納税は国民の義務ではなく権利です！ 教科書・指定図書　第 1 章
第3回	テーマ(何を学ぶか):課税要件＜納税義務者と課税所得＞ 内　容: 所得税とは、納税義務者、課税所得の範囲、所得の帰属等。 課税要件とは？公平の考え方。 教科書・指定図書　第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):利子所得・配当所得および所得税の源泉徴収制度について 内　容:利子所得および配当所得の意義と金額の計算方法 ニーサとイデコ！ 教科書・指定図書　第3・4章　および第 19 章
第5回	テーマ(何を学ぶか):青色申告制度・不動産所得 内　容:簿記と青色申告制度の概要と特典、不動産所得の意義と金額の計算方法 電子帳簿、インボイス、電子申告について 教科書・指定図書　第 18 章および第 5 章
第6回	テーマ(何を学ぶか):事業所得① 内　容:事業所得の意義、金額の計算、収入金額＜ 商品を自分で消費したらどうなる？自家消費の問題 教科書・指定図書　第6章

第7回	テーマ(何を学ぶか):事業所得② 内　容:必要経費、棚卸資産 必要経費、家事費および家事関連費の関係 教科書・指定図書　第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業所得③ 内　容:事業所得およびこれまで見てきた内容の計算演習 従業員の不法行為と使用者の責任、レポート課題 教科書・指定図書　第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか):給与所得 内　容:概要と計算式 クロヨン問題、 レポート課題の解説 教科書・指定図書　第7章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):退職所得と山林所得 内　容:分離課税と 5 分5乗方式 経常所得と臨時所得、短期所得と長期所得 教科書・指定図書　第8・9章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):譲渡所得・一時所得・雑所得 内　容:譲渡所得の概要と計算式 土地や建物を売却したら譲渡所得、家財道具は非課税。 教科書・指定図書　第 10・11・12章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):損益通算 内　容:損益通算と損失の繰り越し控除 被災したら税負担はどうなるのか？ 教科書・指定図書　第 13 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):所得控除 内　容:各種所得控除制度の内容 扶養控除や基礎控除の額および課税最低額について！ 教科書・指定図書　第 14 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):納付税額の計算 内　容:課税所得金額と納付税額の計算 累進税率の仕組み、住宅関連税額控除制度について。 教科書・指定図書　第 15・16章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):租税の確定手続と全体のまとめ 内　容:　申告納税制度と不服申立制度、租税犯則について！ 脱税は犯罪です。 教科書・指定図書　　プリントおよび教科書の総合問題
定期試験	期末試験を実施する

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財務戦略	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
長谷川美千留	**時間：**講義の際にお知らせします。 **場所：**503 研究室	講義

〔科目の概要〕

現代企業は継続企業として存在している。企業が、継続企業であり続けるためには、企業価値の向上という経営上の目的を達成し続けなければならない。伝統的な財務戦略とは、このような企業の経営上の目的を達成するために必須のものであり、経営戦略を財務（すなわち資金調達、資金運用）の側面から具体化し、支援するものと考えられる。

企業を取り巻く環境は常に変化しており、これに応じて、近年、財務戦略の在り様も変化している。このような変化の背景には、我が国の企業の株式所有構造が変化し、外国人投資家との企業との関係がとりわけ重視されるようになったという事実がある。これと同時に、財務指標のひとつである ROE の重要性や企業価値向上が盛んに議論されている。その一方で、過度の株主重視経営から脱し、多様な利害関係者に目を向けつつ、非財務情報開示と企業価値との関係を重視するべき、という議論もある。このような状況を踏まえ、ROE を重視した株主価値、企業価値の向上を掲げる財務戦略と EGS 財務戦略のような新たな方向性の二つの側面から、現代企業の財務戦略について検討する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「財務戦略論」は戦略という意味では「経営戦略論」と、財務という点においては「財務管理論」、「財務分析Ⅰ」ならびに「財務分析Ⅱ」と関連している。講義内容は、具体的な資格や検定試験に直結はしないが、企業という対象を「経営」と「財務」という二つの分野の中間地点から概観することで、企業経営に関する理解が深まる。

〔科目の到達目標〕

現代企業の財務戦略の概要を理解し、株主価値経営という視点からみた財務戦略と近年注目される ESG 財務戦略について、自らの企業観に基づき論じることが出来る。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○				○		○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

復習や練習問題が好評なので、こちらは今年度も継続したいと思います。

〔教科書〕伊藤邦雄（2023）『企業価値経営第 2 版』 日本経済新聞出版社

〔指定図書〕

A）桑島浩彰・田中慎一・保田隆明（2022）『SDGS 時代を勝ち抜く ESG 財務戦略』ダイヤモンド社

B）柳良平（2017）『ROE 革命の財務戦略－外国人投資家が日本企業を強くする』中央経済社

〔参考書〕

〔前提科目〕

簿記・会計の基礎科目

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

評価方法　定期試験（筆記）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 現代企業の経営について、財務戦略の視点から、受講者の皆さんとともに考えていきたいと思います。 企業に関するに日頃から目を向け、情報を収集するよう心がけてください。
〔実務経歴〕 該当なし

授業スケジュール	
第 1 回	テーマ: イントロダクション 財務戦略とは何か 内　容: 現代の財務戦略における課題を概観する 教科書 序章 指定図書 B)第1章
第 2 回	テーマ:価値思考と財務戦略 内　容:企業価値とガバナンス改革 教科書 序章
第 3 回	テーマ:企業価値経営のフレームワーク 内　容:企業価値経営とは何か 教科書 第 2 章
第 4 回	テーマ:財務諸表から読む企業活動 内　容:財務諸表から企業活動とその財務戦略を読む 教科書 第 3 章
第 5 回	テーマ:戦略的ファンダメンタル分析 内　容:財務分析について 教科書 第 4 章 指定図書 B)第 2 章
第 6 回	テーマ:会計戦略分析 内　容:会計政策と戦略 教科書　第 6 章・
第 7 回	テーマ:証券市場と企業評価 内　容: 市場と会計情報、投資家との対話について 教科書第 9 章 指定図書 B)第 6 章
第 8 回	テーマ:学修のまとめ① 内　容:第 1 回から第 7 回までのまとめ 教科書 序章 第 2,3,4,6,9 章
第 9 回	テーマ:資本コスト 内　容:資本コストの測定と管理 教科書 第 10 章 指定図書 B)第 4 章
第 10 回	テーマ:M&A 内　容:企業価値創造のための M&A と事業ポートフォリオ 教科書 第 12 章
第 11 回	テーマ:統合報告書 内　容:近年公表される株式会社の統合報告について。 配布資料

第 12 回	テーマ:無形資産と財務戦略 内　容: 無形資産の価値評価と前略的活用。 教科書　第 14 章
第 13 回	テーマ:ESG 経営と財務戦略① 内　容:ESG の視点から財務戦略を考える。 教科書　第 15 章　指定図書 A)第 2 章
第 14 回	テーマ:ESG 経営と財務戦略② 内　容:近年注目される、非財務情報と企業評価について 教科書　第 15 章　指定図書 A)第 3 章
第 15 回	テーマ:学修のまとめ② 内　容:第 9 回から第 14 回までのまとめ。 教科書　第 1 章～第 6 章　指定図書第 1, 2, 4, 6 章
試　験	定期試験(筆記)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営情報論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
古賀広志	**時間**：集中講義なので講義間の休憩時間とします **場所**：教室	講義

〔科目の概要〕

本講義では，経営情報論研究において現在主流となっている「社会構成主義・社会物質性」の視点を採用し，新しい経営情報論の考え方について概説する．加えて，現在急速に進行しつつある DX（Digital Transformation）環境と呼ばれる高度で先進的なデジタルネットワーク環境の活用について概説する．さらに，情報社会ならびに情報倫理の議論を，明確に経営情報論の理論体系の中に位置づけることで，ビジネスの世界における経営情報の考え方を包括的に説明していく．

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

企業活動を題材とする講義科目の中で，企業活動を情報とシステムの視点から捉える応用科目に位置づけられる．情報化は現代企業の重要課題の 1 つであることから，たとえば「IT パスポート試験」の基礎知識の習得，あるいは『情報通信白書』などを通読するための基礎知識を習得することは，将来のキャリア形成においても無視できないと思われる．本講義で学修した内容は「すぐに役立つノウハウ集」ではないが，これからの企業活動を理解する上で有益なヒントを与えてくれると思われる．

〔科目の到達目標〕

将来，実務界において責任ある開発とイノベーションを進めていく人材に育つために， ICT の開発と利用に関する技術的課題だけでなく，社会・倫理・法的問題に関する知見を習得することを到達目標とする．

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○		○	○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

教科書に沿いつつ，具体的な事例を紹介しながら，丁寧に説明していきたいと思います．

〔教科書〕

遠山 曉・村田 潔・古賀広志『現代経営情報論』有斐閣

〔指定図書〕

〔参考書〕

必要に応じて指示します

〔前提科目〕

組織論，経営戦略論Ⅰ，経営戦略論Ⅱ

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

集中講義ですが，毎時間の終わりに小テスト(ミニッツペーパー)を課し，それらを総合的に評価します.

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

集中講義ですので精力的に出席し，教員からの質問があれば自分の考えを発言することを望みます.

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 経営情報論とは何か(イントロダクション) 内　容： 経営情報システムの歴史的展開(変遷)について簡単に触れる 教科書・指定図書: 遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第1章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：経営情報論の基礎理論(組織論と戦略論の基礎) 内　容：経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する. とくに，組織論と戦略論について，情報の視点から概説する. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：経営情報論の基礎理論(システム理論とネットワーク理論) 内　容：経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する. とくに，システム理論とネットワーク理論について，情報の視点から概説する. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：経営情報システムとは何か 内　容：社会構成主義・社会−物質性の議論に基づく経営情報システムの定義，人間と人間，さらには人間と人工物との間の情報的相互作用の支援，経営情報システムの役割などを解説する. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第3章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術の進展と組織 内　容： ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する. とくに，ICT の基本特性，ハードウェア，ソフトウェアの基礎，標準技術などを解説する. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術の進展と組織(続き) 内　容： ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する. とくに，ICT の基本特性，ハードウェア，ソフトウェアの基礎，標準技術などを解説する(前回の続き). 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：経営情報システムの設計・開発 内　容：アジャイル(状況適応)，Dev Ops，Biz Dev Ops などクラウド環境を前提にしたシステム開発(持続的インテグレーション)・管理を中心に説明します. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第5章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)：経営情報システムの管理(デジタル・ガバナンス) 内　容：IT ガバナンス，情報セキュリティの基礎的な考え方について説明します. 教科書・指定図書：遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第6章

第 9 回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術を活用したビジネス・ノベーション 内　容:ICT によるビジネスイノベーション理論について解説します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第7章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):ネット・ビジネス 内　容:電子商取引, サーチエコノミー／アテンションエコノミー, ソーシャルメディア, モバイルビジネスなどについて説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第8章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション 内　容:社会構成主義ならびに社会物質性の議論を全面的に採用した形で, 組織コミュニケーションと情報技術の関係を説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション(続き) 内　容:データコミュニケーションについて, コンビニのレジシステムを中心に説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスインテリジェンスとナレッジマネジメント 内　容:ビジネスインテリジェンスとアナリティクス, 組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理, ナレッジマネジメントなどについて概説します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第10章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)::情報通信技術と社会・倫理 内　容:情報社会における組織と個人のアカウンタビリティ, 監視社会とプライバシー保護, 個人番号制度などについて説明する. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理(続き) 内　容:AI・ロボットの浸透と職業生活, ベーシックインカム, ICT と持続可能性などについて説明します. 教科書・指定図書:遠山曉・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
試　験	実施しない

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
商業実習	4 単位	教 職 課 程

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
砂場 孝一郎 Sunaba kouichirou	時間 ： 授業実施日の授業終了後の時間 場所 ： 5階の非常勤講師控え室 又は ロビー	講義 ・ 演習

〔科目の概要〕

この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、高校生を商業に関する「将来のスペシャスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。

受講する学生は、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを身に付け、豊かな人間性の涵養に配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。

文部科学省は 2022 年度から、年次進行で改訂：新高等学校学習指導要領を発表・実施している。

前年度はその３年目であり、完成年度であった。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する　②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する　③道徳教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する　の３点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実施できる、将来の教師を育成しなければならない。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、多様化してきている。

このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。

また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育関連法規をもとに、商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要性がある。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

当該科目は、教職課程の選択科目である。

商業科教師を目指す受講生には、次のことが求められるので、この科目の目標とする。

① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的合理的に行うための指導力を育成することが求められる。以上のことが中間目標である。

② 次に商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、さらには、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成し、人としての資質を育成することが求められる。そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。

以上の資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○	○			

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。

学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法　商業Ⅰ・商業Ⅱ」での授業等に生かされることが、この科目の目標の一つでもある。

また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本ともなるので、これまで指摘をいただいた授業評価内容を真摯に受け止め、授業改善に生かしていきたい。

〔教科書〕

購入は不要である。 必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。

〔指定図書〕

「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会　編　　実教出版

〔参考書〕　　な し

〔前提科目〕　な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。

評価の方法は、(1)課題のレポート提出(1回予定)

(2) 筆記小テスト(授業内で2度予定)

(3) プレゼンテーションの実施

(4) 授業の履修・態度を通して、学習意欲の有無、

目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。※ 因みに、授業に出席さえすれば単位認定される、とは限らない。※それを本学の定める評定方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

文部科学省は、高校の授業を2022年度から年次進行で実施する改訂:新学習指導要領を公表し、実施している。

そのために、この授業の担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、同要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。因みに、教員採用試験の解答方法は、鉛筆での記述形式である。

なお、学生が授業を欠席する際の担当教員への連絡は、原則として不要とする。

〔実務経歴〕　該 当 な し

授 業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか) ： オリエンテーション 内　容 ： 講義の目的と内容、進め方、評価の方法について 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第２回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法 （ 関連法規と商慣習 ） 内　容 ： 売買条件 （ 商品の品質 ・ 数量 ・ 価格 ） 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による

第３回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買条件 (受け渡し時期 ・ 受け渡し場所 ・ 代金の受払方法) 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第４回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第５回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務) 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第６回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　　容 ： 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の制度廃止 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第７回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 度量衡 ・ 外国貨幣 ・ 割合、外国為替の基本 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第８回	テーマ(何を学ぶか)　： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第９回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第10回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 利息の計算・日数計算 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第11回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： ビジネスに対する心構え 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第12回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第13回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第14回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対) 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第15回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ：人間関係(ヒューマン・リレイション)の重要性　　筆記小テスト （１回目） 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第16回	テーマ(何を学ぶか) ：　企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織(1) 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による

第17回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織（2） 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第18回	テーマ(何を学ぶか) ：企業活動の基礎 内　容 ： 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第19回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ：学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第20回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ： 企業活動と税 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第21回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ： 雇　用(働き方改革・労働関連法令) 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第22回	テーマ(何を学ぶか) ：　経済社会と法 内　容 ： 経済関連法の意義と役割 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第23回	テーマ(何を学ぶか) ： 権利・義務と財産権 内　容 ： 権利と義務、物権と債権 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第24回	テーマ(何を学ぶか) ： 権利・義務と財産権 内　容 ： 知的財産権 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第25回	テーマ(何を学ぶか) ： 取引に関する法 内　容 ： 契約と意思表示、売買契約と賃借契約 指定図書からの資料　及び　教員作成のレジュメ、資料による
第26回	テーマ(何を学ぶか) ： 取引に関する法 内　容 ： 債権の管理と回収、金融取引
第27回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業の責任と法 内　容 ： 法令遵守、紛争の予防と解決
第28回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業の責任と法 内　容 ： 消費者保護
第29回	テーマ(何を学ぶか) ： 商業教育の現状と課題 内　容 ： 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 2022年度実施開始の新学習指導要領の概要と商業教育の方向性について
第30回	テーマ(何を学ぶか) ： 商業科教員になるには 内　容 ： 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方改革の現状　　筆記小テスト（２回目）
試　験	授業の中で、筆記小テストを2回　実施する。 （1回目は第15回の授業の中で ・ 2回目は第30回の授業の中で実施）。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域企業論Ⅰ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田　泰亮 IKUTA Yasuaki	**時間:**メールか直接アポイントメントを **場所:**1305 研究室	講義

〔科目の概要〕

地域企業論Ⅰでは「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、１年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」であると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。

〔科目の到達目標〕

地域企業論Ⅰ,Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。

（１）地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための「基礎知識」を学ぶ。

（２）企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」ができる。

（３）企業の経営政策、事業戦略についてのデータ分析やケース・スタディを行い「問題解決策の立案」「戦略策定」や「政策提言」ができる。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○			○	○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

大学での学びにおいて、講義はあくまでもその専門分野の初歩、イントロダクションであり、講義をきっかけにさらに自ら学習することが求められます。シラバスへの記載事項、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講し、評価アンケートに回答している方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めてください。当然のことながら、履修した以上は、しっかりと学習してください。努力せずに単位取得したいと考えている方は履修されない方がよいかと思います。

受講態度の悪い学生(遅刻、欠席)、周囲の迷惑(私語等)になるような行為には厳しく対処します。

講義内容以外にも学習方法等についての相談にも応じているので、遠慮なく質問や相談してください。

〔教科書〕

なし(配布資料)

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

経営学基礎論を履修し、単位取得していること(必須)。

また、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となります。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えたえで、履修することを推奨します。特に秋学期の地域企業論Ⅱを受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨します。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

80%以上　A　　79−70% B　　69−60% C　　59−50%　D　　49%以下 F

理解度テスト（20%）第７回講義日に実施する。

学期末の定期試験（50%）

課題レポート（30%）

※詳細は講義内で説明する。

※講義進行の妨げとなる行為、注意を聞き入れない場合、当該学生の本科目の評価を「F」とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

ポイントを絞りつつも他の科目内容との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目と関連付けて深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。

毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。

秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：イントロダクション 内　容：　講義内容と進め方について
第２回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（１）現状と課題の概観 内　容：地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか？
第３回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（２）基本概念の整理 内　容：経営経済学的な「地域社会」の理解
第４回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（１）地方と都市と企業の歴史的考察 内　容：農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、２つの原理とその重層性について学ぶ
第５回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（２）われわれの生活と地域、企業 内　容：「少子高齢化」「極点化社会」「表日本と裏日本」

第 6 回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（３）現代のコミュニティ問題と地域企業 内　容：労働観、雇用機会の変容、地域社会の経済、雇用を支える企業
第 7 回	テーマ（何を学ぶか）：理解度テストと前半のまとめ 内　容：講義時間内に理解度テストを実施、前半の内容についてのまとめを行う。
第 8 回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（１）企業の成長・発展段階、企業の存在意義 内　容：　経営体として企業を理解するための基礎的概念（企業、経営、事業）を学ぶ
第 9 回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（２）様々な企業観と企業の種類 内　容：経済学的、経営学的な企業観、制度としての企業
第 10 回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（３）利益から考える企業の存在意義 内　容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義（マルクス、ウェーバー、ドラッカー）
第 11 回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（１）資源、技術、商品、市場からの環境分析 内　容：経営資源、技術、商品、市場の観点から事業を考える。
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（２）産業の立地条件 内　容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（３）企業間関係論、戦略的提携の視点 内　容：　産業構造、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）
第 14 回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（４）競争のない新たな市場開拓　ブルー・オーシャン戦略 内　容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題 内　容：
試　験	期末試験を行う。また、課題レポートの提出を求める。詳細については改めて説明する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域社会論Ⅰ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
佐々木　てる	時間：授業開始時に指示 場所：大学院棟 1201 研究室	講義

〔科目の概要〕

青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼（都市型の祭り）が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数％に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。

青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 110 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。

本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年度も「地域×アート」の可能性に注目する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイディアをより専門的で、地元に根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできるようになるだろう。

扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会学的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。

〔科目の到達目標〕

最終目標：地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭礼やイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。

中間目標：身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
	○				○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。

また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし

〔参考書下記の本を参照することが望ましい。

松本茂章 2024『地域創生は文化の現場から始まる』学芸出版社

野田邦弘 2020『アートがひらく地域のこれから』ミネルヴァ書房

宮田登／小松和彦 『増補版　青森ねぶた誌』青森市、2016 年〕

〔前提科目〕

特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で、評価を行う。また中間時に確認テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。

・コメントは授業の内容を理解しているのか、自分なりの意見を持てているのかを重視して、評価をおこなっている。また一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。

・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている（目安として5回欠席は単位認定不可としているが、すべて出席したからといって、単位が取得できるわけではない）。

・カードリーダーによる出席は 5～10 分程度とし、間に合わない場合は欠席もしくは遅刻となる。原則 2 回の遅刻で欠席扱いとする。カードリーダーに間に合わず、遅刻した場合は、授業終了後に申し出ることとする。

・カードリーダーの出欠だけおこない授業を欠席したことが発覚した場合、事情聴取の上、悪質性が高いと判断されれば、当該科目はＦとなる可能性がある。

・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。

・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・試験 60％、コメント用紙 30％、中間テスト 10％として採点する。

A～F の評価は本学の規定に準ずる。

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）： 地域と向き合う 内　容： ガイダンス　地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：青森文化を考える視点：グローカル文化を考える 内　容： 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローカルな視点を考える。 教科書・指定図書

第 3 回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識① 内　容:基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識② 内　容:現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等ついての意味づけを考えていく。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼① 内　容:都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。特に「地域×アート」の可能性を考える。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼② 内　容:青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③ 内　容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ。 内　容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域メディアとねぶた 内　容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ねぶた祭りを支える人々、組織 内　容:地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:　他の祭礼との比較 内　容:前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事 内　容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書

第 13 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設②:造形物としてのねぶたアート 内　容:前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設③:文化の外部化 内　容:地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には青森市外で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、その地域活性化の可能性を行う。「祭」の地域での役割を考える。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の未来にむけて。 内　容:講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書
試　験	筆記試験を実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
環境経済学	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
青山　直人 Aoyama, Naoto	**時間：**詳細は授業中にアナウンスします。 **場所：**青山研究室	講義

〔科目の概要〕

私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壌などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的ストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生のメカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価をテーマとして取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。

私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生の原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔科目の到達目標〕

・本講義で取り上げる経済理論を理解できること

・経済理論に基づいて環境問題や環境政策を考えることができるようになること

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○					○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・説明の際、声量・マイクの音量に注意します。

・板書をメモする時間を確保するため、時間的にゆとりのある授業設計をしたいと思います。

〔教科書〕

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ　第 5 版』有斐閣、2024 年。

有村俊秀、日引聡著『入門　環境経済学　新版　脱炭素時代の課題と最適解』中央公論新社、2023 年。

〔指定図書〕

植田和弘著『現代経済学入門　環境経済学』岩波書店、1996 年。

栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013 年。

細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007 年。

諸富徹、浅野耕太、森晶寿著『環境経済学講義-持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008 年。

〔参考書〕

R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著　大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001 年。

板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト　公共経済学』新世社、2013 年。

日引聡、有村俊秀著『入門　環境経済学　環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002 年。

〔前提科目〕

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

期末試験と小テストの成績を用いて総合的に評価する予定です。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

これまでにミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果（授業の理解度等）によっては変更することもあります。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第 1 回 ～ 第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：イントロダクション 内　容：私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第1章、第 6 章 Unit22）など）
第 3 回 ～ 第 4 回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（1）外部性と市場の失敗 内　容：なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit4）、有村・日引（第 1 章）など）
第 5 回 ～ 第 6 回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（2）共有資源の利用と管理 内　容：多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit5）、植田（第 9 章）など）
第 7 回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（3）公共財とフリーライド問題 内　容：環境は公共財としての性質を備えています。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。

	教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit6）など）
第 8 回	テーマ（何を学ぶか）：環境政策の基礎理論（1）直接規制と市場メカニズム 内　容：伝統的な環境政策である直接規制を学習します。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 3 章 Unit7）、有村・日引（第 2 章）など）
第 9 回 ～ 第 10 回	テーマ（何を学ぶか）：環境政策の基礎理論（2）環境税 内　容：環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 3 章 Unit8）、有村・日引（第 2 章）、細田・横山（第 7 章）、諸富他（第 3 章））
第 11 回	テーマ（何を学ぶか）：環境政策の基礎理論（3）直接交渉による解決 内　容：直接交渉による環境問題の解決について学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 3 章 Unit9）、有村・日引（第 2、3 章）、諸富他（第 3 章）等）
第 12 回 ～ 第 13 回	テーマ（何を学ぶか）：環境政策の基礎理論（4）排出権取引 内　容：排出権取引について学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 3 章 Unit10）、有村・日引（第 3 章）、諸富他（第 3 章）等）
第 14 回 ～ 第 15 回	テーマ（何を学ぶか）：環境の価値評価　環境の価値 内　容：環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木（第 5 章 Unit15）、栗山他（第 1、2 章）など）
試　験	試験を実施。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経営論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
足達健夫	**時間：** 後日告知する **場所：** 大学院棟 1302 号室	講義

〔科目の概要〕

人口減少時代を迎えるにあたり、地域をどのような姿にしていく（経営していく）べきかを考える。「地域を経営する」といっても、地域を構成する要素は多岐にわたり、「この方法をとれば、かならずこういう結果が出る」という方程式があるわけではない。しかし、この分野で学んでおくべき概念や考え方、制度、用語、事例はある。本科目ではなるべく網羅的に、基本的かつ重要なものをとりあげる。

講義は、現在の地方都市が直面する状況からはじまり、都市空間、交通、環境、観光などのテーマについて解説する。いずれのテーマにも共通するのは、それらが住民にとってなにを意味するかである。この「住民の視点」を、全体を貫くもうひとつのテーマとして講義を進める。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目の対象は地域社会に住み、地域社会をつくる担い手を想定している。ここで学ぶことは、将来、行政や地域企業で、地域に関わる仕事に取り組む際に最低限必要な考え方・知識である。「住み」、「つくる」ことは、すべての地域住民がやっていることだが、本科目の履修者は、学術的な知識に裏付けられた上で、明確な意図を持ってそれを行うことになる。

〔科目の到達目標〕

「地域経営」が、どのような場面で、どのような考え方によってなされているかを、具体的に説明できること。それに関連するさまざまな事例に言及できること。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
				○	○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

その日の講義の要点をより具体的に整理できるようにした。

〔教科書〕

特に定めない。毎回講義資料を配布する。

〔指定図書〕

特に定めない。

〔参考書〕

特に定めない。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

(1) 期末試験の点数で評価する。

(2) 公欠を除く 6 回の欠席で F 評価とし、期末試験の受験を認めない。受験しても採点しない。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義中、学生一人ひとりに随時、質問をする。自由、柔軟な発想で考えを述べたり、わからないときは「なにがわからないか」「どうわからないか」などを考え、述べたりすることを望む。正しい答えが重要なのではなく、むしろまちがった、あるいは想定されない答え・発言が、本人と他の学生の講義の理解を深める。教員とのコミュニケーションにより、ともに講義をつくる姿勢を要望する。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(1) 内　容: 日本・世界における人口の傾向、合計特殊出生率と影響要因
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(2) 内　容: 人口動態の国際比較、労働との関係
第3回	テーマ(何を学ぶか): 公共施設(1) 内　容: 公共施設・インフラとは、施設数の推移、自治体の財政、総合的な管理計画
第4回	テーマ(何を学ぶか): 公共施設(2) 内　容: 、住民の視点と活動、インフラの外部経済性、事例
第5回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(1) 内　容: 都市化、都市の誕生と成長
第6回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(2) 内　容: 地域モデル、都市の構造
第7回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(3) 内　容: 中心市街地の問題と活性化、コンパクトシティと市街地の誘導
第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(1) 内　容: 交通と都市構造、交通と中心市街地
第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(2) 内　容: 都市交通の問題、自動車交通と公共交通、歩行者環境、地域に与える影響
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(1) 内　容: 環境破壊とはなにか、自然環境の価値
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(2) 内　容: 積極的／消極的な層、環境保護と地域雇用、「見返りのある保護」、事例

第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 観光(1) 内　容: 観光動態、エコ・ツーリズム
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 観光(2) 内　容: 地域資源としての世界遺産、観光形態の変化
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(1) 内　容: フィルム・コミッション、地域イメージのコーディング
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(2) 内　容: 地域プロモーション、メディアの活用、事例
試　験	期末試験。試験範囲はすべての講義内容が対象。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
金融経済学Ⅱ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕原則、研究室在室時は受付。	〔授業の方法〕
山本　俊 Yamamoto　Shun	時間：授業開始時にお伝えします。 場所：授業開始時にお伝えします。	講義

〔科目の概要〕

金融経済学Ⅰでは、金融取引をミクロ経済学の視点に立って学修しました。一方、金融経済学Ⅱでは、金融経済学Ⅰで学んだことを踏まえつつ、金利の期間構造に関する諸仮説を学修した後に、マクロ経済学の視点に立ち、貨幣理論や金融政策の役割や限界、金融危機について学修します。その上で、金融システムの秩序維持政策ついて学修します。

授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、公務員試験問題や金融系諸資格の試験問題等を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

金融経済学Ⅱでは、マクロ経済学やミクロ経済学が常に応用されます。ここでの学修内容は 3 年次秋学期配当科目の「金融機関論」にて応用されます。

2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか

新 NISA が開始されて既に 1 年が経過しています。これは個人の資産運用を支援する政策とも言え、特に、金利のある世界に住み、長期投資が可能な皆さんにとって、金融資産の保有は大きな資産を形成し得る機会となります。当然、企業においても資産保有の在り方を見直す必要性は高まっています。こうしたとき、金融政策の効果や金融秩序維持、金融危機に関する理解を深めることは、保有する資産の形成や安全性の向上に直結することは明らかであり、学ぶ意義は大きいと言えます。

〔科目の到達目標〕

・金融政策の目標、手段、限界を説明でき、金融政策の効果を正しく見通すことができる。
・金融危機による弊害と金融秩序政策の意義と課題を正しく説明できる。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○			○	○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。

〔教科書〕

金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。

なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。

〔指定図書〕

内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年

〔参考書〕

参考書1：畫間文彦『金融第 4 版』新世社、2024 年

参考書2：福田慎一『金融論市場と経済政策の有効性【新版】』有斐閣、2020 年

〔前提科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学、金融経済学Ⅰ
ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

以下の方法によって成績評価します。

①授業内クイズ:30%(第 11 回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。)

②期末試験:70%(択一式と記述式の併用)

※評価の前提として、原則、全授業回数の３分の２以上の出席を必要とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。

②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。

③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。

④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。

⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。

〔実務経歴〕 特に、なし。

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、金融経済学Ⅰの復習(1) 内　容: 金利の期間構造の理論に関する学修に備え、債券の利回りについて復習します。債券と対比させつつ、株価決定の理論についても復習します。 参考書1の 5 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):金融経済学Ⅰの復習(2) 内　容:金利の期間構造の理論に関する学修に備え、金融市場における裁定取引について復習します。 指定図書の9章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):民間銀行の利鞘 内　容:民間銀行、特に、いわゆる地域銀行の金融仲介業務における利潤の源泉ともいえる利鞘について、金利の期間構造の理論と関連させて学修します。 指定図書の8章と 13 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):金利の期間構造の理論 内　容:金利の期間構造の理論には大きく3つの仮説があり、その各々について学修します。その上で、イールドカーブを導出し、その見方についても学修します。 参考書1の5章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):民間銀行の機能と取り付け騒ぎ 内　容:民間銀行の基本的な機能を学びつつ、信用創造の意義について学修します。また、高校生の何気ない会話が金融機関を危機においやったという事例を取り上げ、民間銀行の機能に由来する問題として、取り付け騒ぎについて学修します。 指定図書の8章と 13 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):中央銀行の役割 内　容:次回以降に学修する金融政策の担い手たる中央銀行の役割について学修します。 指定図書の 12 章と 14 章、参考書2の 11 章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):貨幣の理論 内　容:マクロ経済学でも学修した貨幣需給に焦点をあて、貨幣の諸理論を学修します。 指定図書の 12 章、参考書2の 10 章

第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 伝統的な金融政策と金融政策の有効性 内　容:マクロ経済学で学修した IS-LM 分析に基づいて金融政策の有効性を確認します。ここで重要なのは、金融政策の有効性がどのような場合に限定的となるのかということや、政策変数をどのように決定するのか(裁量的かルールに則るのか)ということです。特に、ルールについては通貨量や金利操作の視点から考えてみましょう。 指定図書の 12 章、参考書2の 12 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):金融政策の目的、最終目標、手段 内　容:第 8 回の学修内容を踏まえ、金融政策の目的や最終目標、様々な手段について学修します。その上で、我が国の政策金利の水準の推移を確認し、政策金利がゼロに近づいた場合に取り得る金融政策ついて考えてみましょう。 指定図書の 12 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):非伝統的金融政策 内　容:第 9 回の学修内容を踏まえ、1999 年以降に見られる非伝統的金融政策の仕組みや効果について学修します。 指定図書の 12 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):資産バブルと金融危機 内　容:我が国において 1980 年代後半から 90 年代初頭にかけて見られた資産バブル、1990 年代後半に顕在化した金融危機、米国において 2000 年代半ばに見られた住宅バブルと世界金融危機が経済に与えた影響やそこでの対策について学修します。 指定図書の 13 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):金融秩序を維持するためのプルーデンス政策 内　容:金融秩序を脅かすような問題(取り付け騒ぎなど)に対し、予防的な(事前の)プルーデンス政策と、問題発生後の損失の最小化に向けた(事後的な)プルーデンス政策があり、それらの意義と課題について学修します。 第 11 回目の授業では、第 10 回目までの内容についてクイズ及び解説を実施します。 指定図書の 14 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):事前のプルーデンス政策 内　容:第 11 回目の学修を踏まえ、事前のプルーデンス政策である「参入・業務分野規制」や「自己資本比率規制」について学修します。 指定図書の 14 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):事後のプルーデンス政策 内　容:第 11 回目の学修を踏まえ、事後のプルーデンス政策である「救済・合併」や「預金保険制度」について学修します。 指定図書の 14 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):これからの金融 内　容:これまでの学修内容が当てはまりにくいような新たな変化が金融の世界で見られ始めています。ここでは、特に、「ダイベストメント」や「ソーシャルファイナンス」について学修します。 指定図書の終章
試　験	期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経済学	4 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
樺　克裕 KAMBA, Katsuhiro	授業開始後にお知らせします。	講義

〔科目の概要〕

21世紀に入り、経済はグローバル化しました。企業は国境を超えて活動し、様々な国で作れられた商品が日本国内で流通する時代になりました。そのような中で、日本企業はアメリカやヨーロッパ諸国のような先進国の企業だけでなく、中国や韓国、インド等の新興国の企業とも激しい競争を繰り広げており、日本企業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。

一方で、日本国内では、人口減少社会を迎え、その中でも人口と企業が集中する東京等の都市部と、人口の流出に歯止めがかからず地域経済が衰退しつつある青森県のような地方部の経済的な格差が深刻な社会問題となっています。様々な規制緩和により、大企業が提供する低価格な商品、サービスを全国どこでも享受できるようになった一方で、地方の老舗企業の倒産も目立っています。

また、日本の各地域の経済を詳細にみると、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立っています。グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖することも珍しくない状況にあります。

このように、地域経済は、日本国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析と人口移動、地価、都市規模、立地等に関する理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

みなさんが既に学んできたミクロ経済学、マクロ経済学等では、物事を単純化して考えてきたと思います。しかし、実際に各地域の経済を考える時には、地域の特性（気候、人口、地理的条件、インフラの整備状況…）を無視して考えることはできません。地域経済をより深く理解するため、地域経済学の授業では、地域の実情を考慮しながら、地域経済を分析する視点を提示していきます。

学生の皆さんは、いずれ社会人として地域経済の担い手となります。その際、この授業内容が少しでも役立つようになればと願っています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標：世界経済、日本経済、地域経済の現状について理解すること

最終目標：経済学的視点を持って地域経済の様々な問題を分析できるようになること。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○					○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

綺麗な板書を心掛けます。

〔教科書〕

なし。授業は配布するレジュメに沿って進行します。

〔指定図書〕

佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状［新版］』有斐閣ステゥディア　有斐閣　2023 年

〔参考書〕

浅田義久・山鹿久木 『入門都市経済学』ミネルヴァ書房 2023 年

土地総合研究所編 山崎福寿・中川雅之著『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』東洋経済新報社 2020 年

金本良嗣・藤原 徹『都市経済学(第2版)＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』東洋経済新報社 2016 年

高橋孝明『都市経済学』 有斐閣ブックス 有斐閣 2012 年

〔前提科目〕

ミクロ経済学・マクロ経済学

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

中間試験と期末試験で評価します。詳細は第 1 回目の授業で発表します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

地域の経済活動に関心をもつために、新聞やニュースをチェックすることを推奨します。

〔実務経歴〕

旧通産省での実務経験を活かし、世界経済・日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深める授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):地域経済学とは？ 内　容:世界経済と日本経済と地域経済の関連性
第2回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の現状 内　容:本格的に地域経済学を学ぶ前に、地域経済の現状を俯瞰する。
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(1) 内　容:経済のグローバル化が日本経済に与える影響
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(2) 内　容:グローバル化が地域経済に与える影響
第5回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(1) 内　容:経済政策の種類と地域経済への影響
第6回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(2) 内　容:過去の経済政策(経済対策)と地域経済
第7回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(1) 内　容:セイの法則と有効需要の原理
第8回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(2) 内　容:需要モデルと供給モデル
第9回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(1) 内　容:産業連関表の導出

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(2) 内　容:産業連関表と経済波及効果
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(1) 内　容:日本の企業経営の現状
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(2) 内　容:地域の中小企業の現状
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(1) 内　容:労働市場の概説
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(2) 内　容:労働市場の地域間格差
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政と地域経済 内　容:財政制度の概要
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(1) 内　容:地域間人口移動の現状
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(2) 内　容:地域間人口移動の理論
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):集積の経済 内　容:集積の経済モデル
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(1) 内　容:農地の土地利用分析
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(2) 内　容:都市の土地利用分析
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(1) 内　容:日本の住宅市場
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(2) 内　容:住宅価格・家賃・地価・地代のモデル分析
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(1) 内　容:システムとしての都市

第 24 回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(2) 内　容:都市規模決定の理論モデル
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(1) 内　容:工業立地の分析
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(2) 内　容:商業立地の分析
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):コロナ禍の地域経済への影響 内　容:人口移動、リモートワーク、オフィス移転等の地域経済への影響
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の理論 内　容:公共財の供給、課税ゲーム
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(1) 内　容:経路選択
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(2) 内　容:交通サービスと混雑の影響
試　験	定期試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
産業組織論	4 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
橋本　悟	時間：初回の授業で提示する 場所：初回の授業で提示する	講義

〔科目の概要〕

産業組織論とは、応用ミクロ経済学であり、産業間の関係、企業間の関係、政府と企業の関係など幅広い分野を含んでいる。授業では、ミクロ経済学の学習をベースとした基礎編と、より実務的・政策的な視点からの応用編に分けて学習する。また、マクロ経済学の経済成長などをベースとして研究開発やイノベーションの重要性も学習する予定である。

目標とする到達レベルは以下の通り。

1．企業の立場から利潤拡大の戦略を考えることができる。

2．政府が行う産業政策の意味が理解できる。

前半は、基本的にはミクロ経済学の復習をしながら、企業活動、市場構造、産業構造を見ていく。後半は、具体的な産業を取り上げて、競争状況、産業政策、グローバル化などを見ていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

企業戦略や産業政策などをはじめとした社会のさまざまな事象に対して、経済学的な視点から考える力を身につけることが出来るようになる。また、需要サイドと供給サイドの視点から市場を見ることができるようになる。

将来的には、企業に就職して具体的な企業戦略を考える際や、市場均衡・マーケットメカニズム・環境を分析する際に役に立つと思われる。さらに、様々な社会の問題に対して、経済学的な視点から問題解決を行う力が身につくと思われる。

なお、ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済などの科目と関連する。

〔科目の到達目標〕

1．企業の立場から利潤拡大などの企業戦略を考えることができる。

2．政府が行う産業政策や競争政策の意味が理解できる。

3．企業サイド（供給サイド）と消費者サイド（需要サイド）の両サイドから市場・産業を見ることができる。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○			○			○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

第 1 回のレジュメを除いて、原則としてレジメの配布は行わない。各自で Google Classroom から PDF データのレジュメをダウンロードし、さらにプリントアウトして使用して欲しい。第 1 回目の授業で詳細を説明する。

〔教科書〕

指定はしない。毎回レジュメを使って授業をする。レジュメに書き込む形で授業を進めるので、しっかりと書き込みながら学習することを強く勧める。また、試験の際には、そのレジュメを使って勉強することになると思われる。

〔指定図書〕

授業内容に興味を持った場合や、理解が不十分な場合は読むことをお勧めする。

青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023

（原著：Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017）

〔参考書〕

1）青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023

(原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017)
2)長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社、1998
3)井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治『入門・産業組織』有斐閣、2010
4)小田切宏之『競争政策論(第2版)』日本評論社、2017
5)ネリス・パーカー『ビジネス・エコノミクス原理(第2版)』(訳岩本・小野)ピアソンエドケーション、2009
6)橘川武郎・平野創・板垣暁『日本の産業と企業』有斐閣、2014
7)David M. Kreps, Microeconomics for Managers (Second Edition), Princeton University Press, 2019
8)草薙真一・橋本悟『インフラレジリエンス(仮)』中央経済社、2025(4 月下旬出版予定)

〔前提科目〕
ミクロ経済学とマクロ経済学の知識があることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
・定期試験(小テスト等を含む)60%
・宿題 40%
・裁量点(授業への貢献度、熱心さなども考慮する)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
基本的にレジュメを配り、その内容に基づいて授業を行う。授業ではできるだけ現実と結び付けて説明をする予定なので、頑張って理解するように心掛けてほしい。また、以下の要領で予習と復習をしてほしい。
(予習)
1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動や企業活動に詳しくなること。
2. ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。
(復習)
3. レジュメを読み直し、重要な語句を覚える。重要な理論はその導出過程も確認する。
4. レジュメに演習問題がある場合は、それを解く。
5. 理解が不十分な場合は、参考文献の該当箇所を読むこと。

〔実務経歴〕
なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス、産業組織論とは。 内　容:産業組織論の概要 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習1 内　容:市場理論(完全競争市場と不完全競争市場) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習2 内　容:企業理論(利潤最大化、費用の概念、規模の経済など) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習3 内　容:企業理論(規模の経済、組織、日本型経営システム) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場1 内　容:独占市場の行動(日効率性、マークアップ原理、屈折需要曲線) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)

第 6 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場2 内　容:複占市場(クールノー・ナッシュ均衡、シュタッケルベルグ均衡、ベルトラン均衡) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場3 内　容:ゲーム理論1(ナッシュ均衡、マクシミン・ミニマックス均衡) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場4 内　容:ゲーム理論2(混合戦略、ゲームの木) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場5 内　容:差別価格戦略(グループ別価格差別、二部料金制度など) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):市場構造1 内　容:参入障壁、参入・退出規制など 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):市場構造2 内　容:垂直統合、水平統合、参入阻止行動 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):市場構造3 内　容:市場の失敗と政府の政策(外部性、自然独占) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):市場構造4 内　容:市場の失敗(公共財、情報の経済学) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):企業のレジリエンス 内　容:レジリエンスの意義・重要性、企業と業界のレジリエンスの現状 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):これまでの復習(小テスト) 内　容:第1回から第 14 回までの復習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):産業分析1 内　容:自動車産業、電力産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):産業分析2 内　容:通信産業、航空産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):産業分析3 内　容:アパレル産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略1 内　容:商品の差別化(理論と事例) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)

第 20 回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略2 内　容:市場の集中度、マーケットシェア、インセンティブ戦略 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):技術革新と研究開発 内　容:技術革新のインセンティブ 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争1 内　容:規制の根拠(外部性など)と規制政策 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争2 内　容:自然独占産業における規制改革 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済1 内　容:ネットワーク効果(バンドワゴン効果)、スタンダード、バーゲニングパワー 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済2 内　容:ネットワーク外部性と企業間競争 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済3 内　容:知的財産権保護と競争政策 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済4 内　容:情報管理と AI 活用 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長1 内　容:経済成長の源泉と経済成長理論(ハロッド=ドーマー、新古典派成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長2 内　容:技術進歩の重要性(内生的経済成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):総復習(小テスト) 内　容:第 16 回から第 29 回までの総復習・問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
試　験	筆記試験

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
実証経済分析	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小寺 俊樹	**時間：** 授業終了後 **場所：** 教室	講義および実習

〔科目の概要〕

実証経済分析は、2年生の「計量経済学」に続き、計量経済学について学ぶ科目です。

計量経済学を修得することにより、観察されたデータを用いてミクロ経済学やマクロ経済学の経済理論について検討できるだけでなく、データを利用して因果関係を調査し政策の効果を計測することができます。この科目では、これまで学んだ統計学や計量経済学の知識を踏まえて、観察データを使って因果関係を推定する手法を修得することを目指し、重回帰分析、操作変数法、パネルデータ分析等について学びます。計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることも重要なため、講義に加えて gretl 等の分析ソフトを使った実習も行っていきます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

実証経済分析は、経済学科の専門科目です。この科目は計量経済学の手法について学ぶことから、2 年生で学んだ「統計学」、「計量経済学」と関連します。

データを分析することが、ビジネスの多くの場面で活用されてきています。企業で働くことを目指す学生は、計量経済学を修得しているとよいでしょう。また、計量経済学の手法により政策の効果を計測できることは、エビデンスによる政策決定を行っていくための重要な要素です。公務員への就職を希望している学生も、計量経済学の手法を身につけておくとよいでしょう。

〔科目の到達目標〕

中間目標： 重回帰分析や操作変数法といった計量経済学の分析手法について理解し、分析ソフトを使用して分析できるようになることです。

最終目標： 政策の効果について自ら分析し、分析結果を説明できるようになることです。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

この授業では実証分析に関する理論の学習だけでなく、gretl を利用した実習による分析手法の修得を行えることが、学生の授業評価における授業の優れた点として挙げられていました。

〔教科書〕

田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』有斐閣

〔指定図書〕

加藤久和（2019）『やさしい計量経済学　プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社

〔参考書〕

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣

〔前提科目〕

統計学、計量経済学を履修済みであることを望みます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

実習や講義において、練習問題や課題を複数回提出してもらいます。

複数回の練習問題や課題(70 点)と期末課題(30 点)の合計点を下の基準で評価します。

A 80%以上、B 70%以上 80%未満、C 60%以上 70%未満、D 50%以上 60%未満、F 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることが大切ですので、積極的に取り組んでください。

〔実務経歴〕

製造業での実務経験

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、計量経済学の基本 内　容: 単回帰分析の復習 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 5 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(1) 内　容: 重回帰モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 6 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(2) 内　容: 重回帰モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 7 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(3) 内　容: 不均一分散 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 7 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(1) 内　容: 内生性の問題、操作変数のモデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 8 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(2) 内　容: 操作変数のモデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 8 章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(3) 内　容: 2段階最小2乗法 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 8 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(1) 内　容: プロビットモデル、ロジットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学　プログラミングなしで身につける実証分析』第 5 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(2) 内　容: 順序プロビットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学　プログラミングなしで身につける実証分析』第 5 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(3) 内　容: 多項ロジットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学　プログラミングなしで身につける実証分析』第 5 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(1) 内　容: 差の差の推定 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 9 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(2) 内　容: 固定効果モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 9 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(3) 内　容: 変量効果モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 9 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): マッチング法 内　容: マッチング法 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩　実証分析のススメ』第 10 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): まとめ 内　容: 授業のまとめ 教科書・指定図書
試　験	期末試験は実施しません。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
ファイナンス理論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕原則、研究室在室時は受付。	〔授業の方法〕
山本　俊 Yamamoto　Shun	時間：授業開始時にお伝えします。 場所：授業開始時にお伝えします。	講義

〔科目の概要〕

ファイナンス理論では、金融経済学Ⅰで学修したポートフォリオ理論の基礎をもとに、証券市場における証券の価格決定の理論や、証券等の取引から派生する金融商品の価格決定の仕組みを学修します。本科目はファイナンス理論であるため、理論の学修を中心としつつも、実際にどのように応用されているのかという、実践的な視点も取り入れます。

授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、金融系諸資格の試験問題等を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

ファイナンス理論の第 4 回から第 9 日までは、金融経済学Ⅰでの学修をもとにしつつ、統計学の知識や考え方を用いて、理論を深めていきます。本科目の第 10 回から 13 回までに学修する金派生商品の取引では、ミクロ経済学（裁定など）の考え方を応用します。

2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか

証券市場における全ての投資家が最適行動をした場合、市場において証券価格がどのように形成されるのかという理解は、金融機関はもちろん企業や個人の投資家にとっても、合理的な投資意思決定をする上で不可欠です。こうした理解を通じて、企業人や個人として、資産運用の視野を広げることにつながります。

〔科目の到達目標〕

・証券市場における証券価格の決定の仕組みを説明でき、それをもとに証券やポートフォリオを評価できる。
・金融派生商品の仕組みを理解し、それらが果たす役割を説明できる。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○			○	○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。

〔教科書〕

金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。

なお、授業資料の作成では、主に、下記の参考書を参照しています。

〔指定図書〕 なし

〔参考書〕

参考書1：ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン『現代ファイナンス論』（原著第 2 版） ピアソン桐原、2011 年
参考書2：内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年
参考書3：榊原茂樹、青山護、浅野幸弘『証券投資論』日本経済新聞社、1998 年
参考書4：小林孝雄、芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ理論篇』日本経済新聞社、2009 年

参考書5:伊藤敬介、萩島誠治、諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務篇』日本経済新聞社、2009 年

〔前提科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学 、金融経済学Ⅰ
ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

以下の方法によって成績評価します。

①授業内クイズ:30%(第 10 回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。)

②期末試験:70%(択一式と記述式の併用)

※評価の前提として、原則、全授業回数の３分の２以上の出席を必要とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。

②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。

③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。

④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。

⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。

〔実務経歴〕 特に、なし。

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、証券市場を形成する金融機関 内　容:証券売買を仲介する金融機関の主な業務と、それらが形成する証券市場を学修します。 参考書2の 10 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):株式の売買注文における原則と方式 内　容:株式の売買注文について、価格と時間の視点を切り口に俯瞰し、2つの売買方式について学修します。 参考書2の9章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):株式の評価指標と配当政策 内　容:割引キャッシュフロー法を応用した株式の評価方法や配当政策が株価に与える影響を学修します。 参考書1の9章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ選択とリスクの分散化(金融経済学Ⅰの復習) 内　容:ここでは、 ポートフォリオ選択の過程、期待収益率とリスクのトレードオフ、リスクの効率的な分散化について復習します。 参考書1の12章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):証券特性線の意味 内　容:縦軸に特定の個別株式の月次収益率、横軸に株式市場の月次収益率をとり、最小二乗法によって回帰直線(証券特性線)を引いたとき、その傾きと残差の意味を考えてみましょう。 参考書3の3章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):Capital Asset Pricing Model(CAPM) 内　容:第 4 回の授業で学修したポートフォリオ理論に従って、全ての投資家が合理的な最適行動をした場合、市場において証券価格はどのように形成されるのでしょうか。こうした問題意識に対する実践的な理論が CAPM であり、ここでは、第 5 回目の授業内容を踏まえ CAPM の基本的な考え方を学修します。 CAPM は 1960 年代にウィリアム・シャープなど複数の経済学者によって提唱された始めた理論であり、シャープは 1990 年にノーベル経済学賞を受賞しています。 参考書1の 13章、参考書3の4章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(1) 内　容:第 6 回の学修を踏まえ、個別株式の期待収益率と証券市場線上にある均衡期待収益率の差に注目し、個別株式の価格水準の適切性がどのように評価されるのかを考えてみましょう。 参考書1の 13章、参考書3の4章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(2) 内　容:第 6 回、第 7 回の学修を踏まえ、:CAPM を応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る指標を学修します。 参考書1の 13章、参考書3の4章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の修正 内　容:1970 年代頃から、CAPM における証券市場線の妥当性が米国の株式データをもとに検証されるようになってきました。しかし、大きく 3 つの理由により、その妥当性は完全に証明されませんでした。その後、CAPMは様々な修正が加えられており、こうした経緯を振り返ってみましょう。 参考書1の 13章、参考書3の4章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(1)　先物取引 内　容: 第 9 回までの授業では、株式を中心とした原資産そのものの取引について学修しました。第 10 回以降は、原資産の取引から派生して取引される金融商品の取引について学修します。今回は、予め定められた価格で金融商品を売買することを約束する先物取引について学修します。 第 10 回目の授業では、第 11 回目までの内容についてクイズ及び解説を実施します。 参考書1の 14章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(2)　オプション取引の仕組み 内　容: 金融派生商品のうち、権利を売買するオプション取引を学修します。ここでの権利は大きく「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」からなり、投資家はコールやプットを売ったり、買ったりするため、投資家の取引の動機を正しく理解しておくことが重要になります。 参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(3)　オプション取引におけるコールの価格決定理論 内　容: 第 11 回の学修を踏まえ、コールを売買する際の価格の決定理論を学修します。ここでは、裁定取引の考え方を応用します。 参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(4)　オプション取引におけるプットの価格決定理論 内　容: 第 11回の学修を踏まえ、プットを売買する際の価格の決定理論を学修します。さらに、プットの売買価格とコールの売買価格の間に成立する関係についても考えてみましょう。 参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):企業の資本構成 内　容:企業の資金調達に関する意思決定を通じて、企業がどのように価値を創造し得るのかを学修します。資本構成の違いを考慮し、企業の設備投資などの評価方法についても学修します。 参考書 1 の 6 章と16章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):ファイナンスと企業戦略 内　容:これまで学修したファイナンス理論が企業戦略上の意思決定にどのように活用されているのか、M&A、スピンオフ、リアル・オプションの視点から考えてみましょう。 参考書 1 の17章
試　験	期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
社会保障論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大矢　奈美	時間：１回目の授業でお知らせします 場所：523　研究室	講義

〔科目の概要〕

社会保障は、近年、その重要性を高めている。この講義では、まず社会保障とは何か、その理念は何かを考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本としているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担し、誰に配分するのかは重要な問題だろう。現代社会において所得を得る手段の中心は「雇用労働」にある。失業、休職は社会保障制度による支援を必要とする場面も多く、労働市場とも密接なつながりを持つ。よって、本講義では、日本の社会保障制度を主に経済の側面から分析する。

社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度として公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度は授業の中で課される課題などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。

社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。本講義では、制度に関しては 2025 年 3 月時点の現行制度のうち普遍的なものを主な対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。

本講義では経済学の視点から問題を検討することを基本姿勢とするが、別の視点から問題を検討する機会を設けたい。授業の 14 回目に、青森県立保健大学・權順浩准教授に担当していただく予定である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

現代日本人の生活は、社会保険を中心とした社会保障制度によって支えられている。たとえば公的年金制度。老齢年金だけでなく、障害年金、遺族年金もある。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用者など将来の低年金リスクを抱えた層の拡大の懸念など、公的年金制度が抱える問題も多い。社会保障を考えるにあたっては、労働市場、財市場、金融市場の構造を見つめる必要もある。

この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1 年時次の日本経済概論およびミクロ経済学、2年次のマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。

〔科目の到達目標〕

・社会保障制度の理念、社会保障制度の仕組みをマクロの視点から理解する
・公的年金制度などの個別制度の仕組みを理解し、これら制度の今後の在り方について自分の意見を持つ

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○				○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

提示資料の見やすさについてコメントがあった。機材トラブルへの速やかな対処を心掛けるとともに、今年度も重要な部分は、レジュメ等で配布する。

〔教科書〕

特に指定しない。

〔指定図書〕

・椋野・田中『はじめての社会保障』(第 22 版)有斐閣, 2025 年 3 月末刊行見込み(たぶん)
・小塩隆士『社会保障の経済学』(第 4 版)日本評論社, 2013.

〔参考書〕

・清家・風神 『労働経済』 東洋経済新報社, 2020 年.
・西村淳編著『入門テキスト 社会保障の基礎』第 2 版、東洋経済新報社, 2022.

その他、必要に応じて授業中に提示する。

〔前提科目〕

マクロ経済学、財政学、労働経済学 など (特に財政学)

財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に時間的に可能な範囲で説明を加える予定。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・理解度確認のための小テスト(対象:1～6回目) と 雇用保険制度についてのクイズ
・期末試験(対象:1～15 回目。筆記による)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある(制度変更の状況にも左右される)。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席すること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。

限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。椋野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。

社会保障は、私達の生活に深い関わりを持っている。自分なりの興味や関心を持って授業に臨んでほしい。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 社会保障とは何か 内 容: ガイダンス、社会保障の考え方(1) 社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書 椋野・田中(25 年 3 月末刊行予定のため、該当する章については講義で説明。以下同じ), 小塩(第 1 章)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(2) 日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書 椋野・田中
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(3) 政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書 小塩(第 1 章)

第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 社会保障と国民負担・財政収支 内　容: 国民経済計算, マクロ統計からみた社会保障, 社会保障制度の実施主体 教科書・指定図書　小塩(第 2 章)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 所得再分配に対する社会保障の役割 内　容: 日本の所得格差、再分配後の所得格差 教科書・指定図書　小塩(第 3 章)
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): ミクロ経済学の視点から考える 内　容: 労働市場と社会保障　ほか 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):社会保障制度の概要についてのまとめ 内　容:社会保障制度の概要の確認　および　クイズによる理解度の確認
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 公的年金制度 内　容: 公的年金制度の意義と体系、財政 教科書・指定図書　椋野・田中, 小塩(第 4 章)
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 公的年金制度の理念と仕組み 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 公的年金制度の抱える問題点と制度改革 教科書・指定図書　小塩(第 4～6 章)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 医療保険制度 内　容: 医療保険制度の理念と仕組み(1) 教科書・指定図書　椋野・田中, 小塩(第 7 章)
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 医療保険制度の理念と仕組み(2) 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 医療保険制度の抱える問題点 教科書・指定図書　小塩(第 7・8 章)
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):公的扶助 内　容: 青森県立保健大学・權順浩准教授による講義 教科書・指定図書　椋野・田中
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 内　容: 生活保護制度の課題 教科書・指定図書　椋野・田中, 小塩(第 10 章)
試　験	授業で扱った内容全てについて筆記試験をおこなう

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済特殊講義Ⅲ	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
堤　　静　子 TSUTSUMI Shizuko	**時間：リアクションペーパーかメールで** **場所：－**	講義

〔科目の概要〕

近年、「地域づくり」や「地域活性化」といったフレーズをよく耳にするようになり、地域経済、地域産業に対する興味・関心は高まりをみせているが、地方の人口減少の影響もあり、地域経済を支えてきた産業も低迷していることも事実であり、様々な課題を抱えながらも、新たな産業振興策や地域産業の創出に関する取り組みが進められている。

本講義では、地域と産業の関わりを捉え、地域を支えている産業の現状を把握し、地域資源を活用した新たな取り組み事例を紹介し、地域資源を活かした地域力向上策や地域産業振興に向けた地域ブランドの確立等、地域住民や自治体の政策について学ぶ。また、新たな地域産業として、ビジネスの手法で地域課題を解決する多様な主体も育ってきており、まちづくりも含めた様々な取り組みについても考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域産業を通じて地域の特性、市場を知り、地域資源の活用事例や地域産業活性化、振興のための事業活動等について具体的に学ぶことで、地域社会のあり方を考え、自分たちが暮らす地域の課題解決の方策策定や、新たな価値創出に向けた取組に関する思考力を高めることができる。

〔科目の到達目標〕

地域産業の現状と地域と課題を理解し、自分なりの課題解決策をイメージできる。

・地域産業を通じて地域資源の活用手法や地域産業振興のための具体的方策について修得する。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○			○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

聞き取りやすい話し方、丁寧な板書を心がける。

〔教科書〕

毎回の講義でレジュメを配付する。

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

講義内で適宜紹介する。

〔前提科目〕

特になし

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

青森県はもちろんのこと、学生の皆さんそれぞれの生まれ育った地域など、様々な地域への興味・関心、理解を広げ深めてほしい。また、授業の理解度の確認や質問の受付等、次の授業へ活かすためにリアクションペーパーを毎回配付し記述し提出してもらう。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション・産業とは 内　容： 授業の進め方や学修内容、評価方法などについてのイントロダクション。 産業とは何か？ 講義配付レジュメ
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 地域とは 内　容： 地域とは何か？地域を学ぶ意義について 講義配付レジュメ
第3回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の産業政策 内　容： 産業政策の変遷について 講義配付レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 経済産業政策 内　容： これからの経済産業政策ついて 講義配付レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の産業構造 内　容： 人口と産業構造の変化について 講義配付レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題① 内　容： 農業・林業について 講義配付レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題② 内　容： 水産業について 講義配付レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題③ 内　容： 製造業について 講義配付レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題④ 内　容： 交通・運輸について 講義配付レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題⑤ 内　容： 観光業について 講義配付レジュメ

第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源の付加価値力 内　容: 地域産業振興に向けた地域ブランドの確立 講義配付レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例① 内　容: ものづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例② 内　容: まちづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル① 内　容: 海外地域モデル 講義配付レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル② 内　容: 国内地域モデル 講義配付レジュメ
試　験	期末試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域の産業Ⅱ	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
（まつだ　えいじ） 松田　英嗣	**時間：** **場所：**	講義

〔科目の概要〕

地元金融機関出身者で現在は地域シンクタンク勤務の講師が担当します。

授業前半の 30 分程度は、日本経済新聞などの経済関連記事をもとに、経済社会の現状を理解するとともに、経済の仕組みや当該記事の意味を受講生の皆さんと考えながら、地域経済や産業を見る目を養います。

授業後半は、それぞれの地域産業を概観しながら、地域経済や産業が抱える課題をマクロの視点から学びます。

また、社会に出るにあたり、最低限抑えておくべき経済統計上の基本的な数字はもれなく授業の中で網羅します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

社会はダイナミックに変化し続けます。現在学生の皆さんが、社会に出て数十年を職業人として過ごす中では、日々数多くの正解のない課題に直面することが想定されます。

そうした局面では、自分なりのしっかりとしたポジション取りをするための論理的な考え方が求められるはずです。

本授業では、産業・経済を切り口としながら、正解のない課題に対応するための論理的な考え方を身に付けます

〔科目の到達目標〕

経済系学部の卒業生として、当然に身に付けるべき能力として、日本経済新聞を自力で読む力を習得する。

⇒読解力は社会で必ず求められます。

多様な経済ニュースに対して、自分なりの解釈ができる応用力を身に付けるとともに、青森県経済が抱える課題を把握できる。

⇒自分なりのポジション取りをする際に必要な力です。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
	○	○		○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生への質問や意見を求める機会が多いです。いずれも、回答の成否よりも、自分の考えを論理的に説明する訓練だと理解下さい。

〔教科書〕

都度、レジメを用意します。

〔指定図書〕

ありませんが、新聞(特に日本経済新聞)を継続的に読みこんで下さい。

〔参考書〕

日本経済新聞

〔前提科目〕

ありませんが、経済原論(経済基礎科目)等の基本的知識を要します。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

出席状況を含む授業の取り組み姿勢 30%程度、試験成績 70%の割合で、総合的に評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

自分の言葉で、積極的な発言を期待します。

〔実務経歴〕

地域金融機関および地域シンクタンクでの経済調査

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内　容: 授業の進め方　日本経済新聞の読み方 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方 I 内　容:経済とはなにか？経済にとって重要な視点はなにか？ 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方 II 内　容: 需要と供給を考える　BtoB　、BtoC、GとNとL 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):経済の見方 III 内　容:地域産業と人口減減少(人口減少のインパクト) 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 1 内　容:青森県経済を俯瞰する。最新の「県民経済計算」の見方 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 2 内　容:ビジネスモデルを考える(小売業やりんご産業を中心に) 教科書・指定図書

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 3 内　容:農林水産業を考える(特化係数の使い方) 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 4 内　容:製造業の可能性を考える(経済波及効果の考え方) 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 5 内　容:三次産業をどうとらえるか？ 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 6 内　容:観光関連産業をどうとらえるか？(なぜ、成長産業なのか？) 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 7 内　容:IT産業を考える(ITで地域課題解決を図る企業を紹介) 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 8 内　容:地域金融機関の方向性(事業領域を拡大する地域金融) 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 9 内　容:地方創生 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):復習・まとめ 内　容:　1～13 回の授業内容振り返り 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):復習・まとめ 内　容:1～13 回の授業内容振り返り 教科書・指定図書
試　験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
自然史・地理情報と地域創造	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三浦　英樹	**時間:** 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) **場所:** 研究室(大学院棟 1203 室)	講義

〔科目の概要〕

教養科目の「地球科学」や基幹専門科目の「地形地理情報論」では、自然を理解し、把握するための基本となる地形・地質学と地理空間情報学の基礎について学んだ。この講義では、これらの基礎的知識をもとに、さらに自然環境全般とその歴史に視点を広げ、自然と人間との関係はどのようにあるべきかという現代的課題について、「地域」をキーワードに、以下の観点から考えることを目指します。

① 物理化学の限界を踏まえたうえで、自然史科学の視点で自然と人間の関係を捉えることの意味
② 世界と日本で生じてきた様々な環境問題の内容と人間との関係
③ 人文社会科学の視点で見た環境問題の考え方と自然科学および人間との関係
④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史の概要とその意義
⑤ 青森県の自然公園・保護地域の特徴とそれらの自然史がもつ意義
⑥ 自然と人と地域を結びつける取り組みと課題

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

これまでに学んだ地球科学、地形地質学や地理空間情報学の知識を基礎として、さらに学問分野の壁を越えて様々な視点で自然環境の価値や読み方、楽しみ方を知ることは、自然と人間の関係を考えていく上で必要な基本的知識になります。それは、持続可能なかたちで人類が生き残るための社会的な課題に対する方策を検討し、地域創造への新たな発想やアイデアを生み出す源泉となるはずです。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。

① 自然と人間の関係を考える上での「自然史」の意義を理解すること
② 人類が抱えてきた環境問題の内容と対応について理解し、それらの経緯に対する自分の考えを持つこと
③ 自然と人間の関係に関するこれまでの人文社会科学的な考え方の基礎について理解すること
④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史に関する知識を習得して、その意義について理解すること
⑤ 青森県の自然公園・保護地域の知識を習得して、その意義について理解すること
⑥ 地域の自然や文化を生かした地域作りに関する基礎知識を得て、自分の考えを持つこと

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○		○	○	○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

紙の配布資料が多いことが苦痛な方には、最初に確認して、今後、資料を配付しないこととしますので、第 1 回の講義時に申し出て下さい。なお、毎回 3 時間分の予習・復習のための十分な資料を準備・配布しているにもかかわらず、自習時間が 1 時間以内かゼロという人がほとんどであったことから、今後、知識の定着と思考の訓練を行うために、多く課して、その内容を成績評価に含めていくようにしたい。

〔教科書〕

ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。

〔指定図書〕

ありません。

〔参考書〕

赤坂憲雄（2020）『民俗知は可能か』.春秋社.
石牟礼道子（2004）『新装版　苦界浄土』.講談社文庫.
岩田修二（2018）『統合自然地理学』.東京大学出版会.
大熊　孝（2020）『洪水と水害をとらえなおす―自然観の転換と川の共生』.農山漁村文化協会.
小野有五（2013）『たたかう地理学-Active Geography』.古今書院.
加藤尚武（2000）『環境倫理学のすすめ(増補新版)』. 丸善出版.
加藤尚武（2000）『新・環境倫理学のすすめ(増補新版)』. 丸善出版.
門田岳久（2023）『宮本常一〈抵抗〉の民俗学: 地方からの叛逆』. 慶應義塾大学出版会.

清水 展・飯嶋秀治（2020）『自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク』.京都大学学術出版会.
社団法人 全国地質調査業協会連合会 ・特定非営利活動法人 地質情報整備・活用機構編（2010）『ジオパーク・マネジメント入門』. オーム社.
菅 豊（2013）『「新しい野の学問」の時代へ』. 農山漁村文化協会.
高木仁三郎（2003）『市民科学者として生きる』. 岩波新書.
谷 誠（2023）『矛盾の水害対策―公共事業のゆがみを川と森と人のいとなみからただす』. 岩波新書.
武内和彦・鷲谷いずみ・恒川篤史編著（2001）『里山の環境学』. 東京大学出版会.
羽生淳子・佐々木剛・福永真弓編著（2018）『やま・かわ・うみの知をつなぐ 東北における在来知と環境教育の現在』. 東海大学出版部.
平野 勇（2008）『ジオパーク 地質遺産の活用・オンサイトツーリズムによる地域づくり』. オーム社.
松下和夫（2022）『1.5℃の気候危機』. EHESC 出版局.
松田裕之・佐藤 哲・湯本貴和編著（2019）『ユネスコ エコパーク 地域の実践が育てる自然保護』. 京都大学学術出版会.
村澤真保呂・牛尾洋也・宮浦富保（2015）『里山学講義』. 晃洋書房.
レイチェル・カーソン（青樹簗一訳）（2019）『沈黙の春』. 新潮文庫.

〔前提科目〕

教養科目の「地球科学」と専門科目の「地形地理情報論」（基幹科目）を必ず先に履修して下さい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

① 第 1 回の講義で、講義全体の目的や評価方法を説明するので、履修を検討する場合も、第 1 回の講義には必ず出席して下さい。理由なく 15 回中 4 回以上欠席した場合は、F 評価とします。出欠は、毎回、学生証を用いて機械的に行うので、学生証を忘れないように注意して下さい。

② 授業終了後には、「リアクションペーパー」を 1 週間以内に提出してもらいます（授業直後の休憩時間内でも研究室 1203 室前の回収箱のどちらでも可）。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、又は重要な意見・質問は、次の授業冒頭で紹介・回答します。

③ 「期末レポート」は、配付資料を十分に読み込み、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じた事を記述することが大切です。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

人類の歴史 700 万年の中でも、ここ 50 年程の人類を取り囲む変化は、地球規模でも、日本という国レベルでも、過去に例を見ないようなものになっています。人間活動全般に関する広範な課題は環境問題に収束し、それは、人間活動の具体的な場所である「地域」にとっても重要な意味を持ちます。なぜ、異常であることを理解するためには、自然と人間の歴史を見つめ直して、両者の関係について考えていく必要があります。また、身近に存在する自然や現象の不思議さや美しさを知ることは、自然の中で生かされている人間というものの存在を再認識する原点にもなります。この講義で何らかの刺激を受けて、地球の中で生きている人間、自然の一部である人間という立場で、自分を客観視して、そのうえで、自分たちが暮らす地域の役割を考え、地域研究に関する「良き問い」を立てられるような人になって欲しいと思います。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）：（1）イントロダクション：自然史とは何か、地域創造との関わり 内 容：全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景について概説します。主なキーワードは、第四紀の生態系・環境変動、自然と人間の関係、自然観、ネイチャーライティングとエコクリティシズム、地球規模の課題と地域の課題の関係、人新世、地理情報システムの活用。
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：（2）世界と日本の環境問題の歴史と内容：①日本の公害問題と地域と自然保護（1） 内 容：日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：（2）世界と日本の環境問題の歴史と内容：①日本の公害問題と地域と自然保護（2） 内 容：日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。

第4回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：①日本の公害問題と地域と自然保護(3) 内　容：日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第5回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：①日本の公害問題と地域と自然保護(4) 内　容：日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第6回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(1) 内　容：地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。
第7回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(2) 内　容：地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。
第8回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(1) 内　容：風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。
第9回	テーマ(何を学ぶか)：(2)世界と日本の環境問題の歴史と内容：③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(2) 内　容:風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。
第10回	テーマ(何を学ぶか)：(3)環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎 内　容：地球という惑星の中での自然と人間の関係を考察するための環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎について概説します。
第11回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(1) 内　容:日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第12回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史：多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(2) 内　容:日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第13回	テーマ(何を学ぶか)：(4)日本列島と青森県の自然環境と自然史:多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(3) 内　容:日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第14回	テーマ(何を学ぶか)：(5)青森県の自然公園・保護地域と自然史：①概要、十和田・八幡平国立公園②津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地、③下北半島国定公園と下北ジオパーク、④三陸復興国立公園、⑤ 青森県立自然公園 内　容:自然公園・自然保護地域の概要と国立公園、国定公園、県立自然公園、ジオパーク、世界遺産の概要と各々の自然史について学び、その価値と意味について考えます。
第15回	テーマ(何を学ぶか)：(6)様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み：エコミュージアム・エコパーク・エコツーリズムの考え方、自然体験教育と地域の魅力の発見 内　容：エコミュージアム、エコパーク、エコツーリズムの事例を紹介し、地域における導入の可能性について考えます。
試　験	レポートのため筆記試験はなし

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域みらい特殊講義 II	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
柏谷　至 KASHIWAYA Itaru	**時間：** 授業開始前・終了後各 30 分程度 **場所：** 非常勤講師控室	講義

〔科目の概要〕

この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。

エネルギーは、私たちの生活に必要不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。

青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。

授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、再生可能エネルギーや省エネルギーを通じた地域活性化を目指す活動に取り組んできました。この授業では、県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

エネルギーというと、科学技術の問題（=いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。

〔科目の到達目標〕

最終目標:

・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる

中間目標:

・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける

・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する

・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
	○	○	○	○	○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2024 年度の授業評価アンケートでいただいた意見を踏まえて講義内容を精選し、授業の進行に時間的余裕を持たせるとともに、参加者からの質問・相談に十分に応じられるようにします。

〔教科書〕

特に指定しません。

〔指定図書〕

特に指定しません。

〔参考書〕

枝廣 淳子 2018『地元経済を創りなおす―分析・診断・対策』岩波書店.

藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店.

田中 信一郎 2018『信州はエネルギーシフトする―環境先進国・ドイツをめざす長野県』築地書館.

〔前提科目〕

特に指定しません。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入し提出してもらう予定です。

また、毎回の授業の最後には、その日の講義内容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内容とそれへの答え、質問をしてみての感想を提出していただきます。15 回の講義の中で、2 回以上質問することを義務づけます。

この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15 回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。

これら 4 つの課題について、予習ワークシートの提出 10 点、授業中の質問 20 点、企画提案ワークシートの提出 10 点、最終レポートの内容 60 点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。

受講する学生の皆さんには、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから地域社会を考える (イントロダクション) 内 容: エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(1)・エネルギー自立の考え方 内 容: エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。

第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(2)・風力 内　容： 代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(3)・太陽光と太陽熱 内　容： 代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(4)・バイオマス 内　容： 代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(5)・省エネルギー 内　容： 代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会（中間まとめ） 内　容： これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： ワークショップ(1) 内　容： ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域エネルギー事業の実際(1) 内　容： 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域エネルギー事業の実際(2) 内　容： 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)：地域エネルギー事業の実際(3) 内　容： 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)：ワークショップ(2) 内　容： ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイディア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。【企画提案ワークシート提出日（予定）】
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(1) 内　容： 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(2) 内　容： 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る（第 14 回の続き）。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)：エネルギーから見た地域社会の未来(3) 内　容： 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。
試　験	最終レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営革新論 I	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮 Ikuta Yasuaki	**時間**:後ほど指示します。 **場所**:1305 研究室（大学院棟）	講義

〔科目の概要〕

新たな視点や価値を見出すものとしてのイノベーションは、その実現可能性や持続可能性をも問わなくてはならない。こうした意味から「事業創成のプロセスとしてのイノベーション」を学ぶことは、やがてビジネス・リーダーとして期待されるみなさんにとって、学んでおくべき重要な内容である。

前半は、シュンペーター、ドラッカー等をもとに、イノベーション本来の意味、イノベーションが経営や経済に与える影響について講義する。中盤からは、「事業創成の理論（小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。）」をもとに「イノベーションと事業の関係」を講義する。様々な事業での実践例をもとに、創造的な技術やアイディアが持続可能な事業として確立されるまでのプロセスを学び、真のイノベーションとは何かを考える。また、ビデオ学習により、学んだ概念やモデルの理解度を深めることとする。

なお、秋学期開講の「経営革新論Ⅱ」と大いに関連性があるので、両講義ともに受講することを強く推奨する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

経営経済の問題を考える際に「イノベーション」は、よく耳にする言葉であるが、本講義では、イノベーションの本来の意味を理解し、現代企業の事業戦略をしっかりと学習し、戦略的発想力、戦略策定力を身につけてほしい。

〔科目の到達目標〕

中間目標:様々な企業の事業戦略を読み解くことができる。

最終目標:事業創成のために、事業の創造から実行可能性、持続可能性までを考えることができる。

〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○			○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

理論の解説だけではなく、ケーススタディやビデオ学習等を行い、技術や企業の最新動向についても読み解く力を身につけてももらえるように、努めていきます。

〔教科書〕

小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。

※経営革新論Ⅱでも使用する。他、適宜資料を配布する。

〔指定図書〕

P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳『イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】』ダイヤモンド社、2015 年。

C.クリステンセン著、玉田 俊平太 監修、伊豆原 弓 翻訳『イノベーションのジレンマ―技術革新が巨大企業を滅ぼすとき〔増補改訂版〕』翔泳社 2001 年。

A.ガワー、M.A.クスマノ著、小林敏男監訳『プラットフォーム・リーダーシップ―イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣、2005 年。

G.A.ムーア著、川又政治訳『キャズム Ver.2 増補改訂版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論』翔泳社、2014 年。

〔参考書〕

なし

〔前提科目〕

経営学基礎論を履修し、単位取得していること。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

80%以上　A　　79−70%　B　　69−60%　C　　59−50%　D　　49%以下　F

小レポート（50%）　※複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。

学期末の定期試験（50%）

※無断欠席は評価の際に減点とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

事例においては、技術や業界の動向について取り上げることになります。専門技術や未知の分野に対して学習する基礎力が身について欲しいと考えています。丁寧に説明するよう心がけますが、予習をしっかりとしてください。様々なイノベーションの事例を学び、柔軟な思考力を養って欲しいと考えています。

質問や学習相談などは遠慮なく。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)：　イントロダクション 内　容：　講義内容と進め方について ※配布資料
第2回	テーマ(何を学ぶか)：シュンペーターのイノベーション論(1) 内　容：経済発展と経営者、企業者の役割 ※配布資料
第3回	テーマ(何を学ぶか)：シュンペーターのイノベーション論(2) 内　容：新結合としての5つのパターン ※配布資料
第4回	テーマ(何を学ぶか)：ドラッカーのイノベーション論(1) 内　容：イノベーションのための7つの機会 ※配布資料
第5回	テーマ(何を学ぶか)：ドラッカーのイノベーション論(2) 内　容：イノベーションと企業家精神 ※配布資料
第6回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(1) 内　容：教科書　第1章　古典的戦略論
第7回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(2) 内　容：教科書　第2章　イノベーションのジレンマ①
第8回	テーマ(何を学ぶか)：事業創成の理論(3) 内　容：教科書　第2章　イノベーションのジレンマ②

第 9 回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(1) 内　容:ビデオ学習を予定
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(2) 内　容:ビデオ学習を予定
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(3) 内　容:教科書　第 3 章　オープンイノベーションへの展開①
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(3) 内　容:教科書　第 3 章　オープンイノベーションへの展開②
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(4) 内　容:教科書　第 4 章　プラットフォーム・リーダーシップ①
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(4) 内　容:教科書　第 4 章　プラットフォーム・リーダーシップ②
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):講義全体のまとめ 内　容:
試　験	筆記試験を行う(詳細は後日、指示する)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財　務　会　計　論 Ⅱ	2単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄	**時間:** 初回にアナウンスします **場所:** 513研究室	講 義

〔科目の概要〕

～現代の会計基準を学ぶ～　キャッシュって？

経営の状況を知る手段として会計はなくてはなりません。会計に関する情報は、マネジメントでの活用はもとより、配当額や課税所得の算定基礎となり、また証券投資における重要な情報となっています。

会計情報は簿記データを基礎としているわけですが、企業活動の進展にともない多様な取引が出現し簿記処理もますます複雑になってきます。またそれに合わせて会計基準も新設・改廃がなされています。ともあれ、現代の会計基準が見据えているものは、投資家のための「純資産簿価モデルの会計」といえるでしょう。

他方、会計の世界でも持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて模索が続けられています。今日、従業員への給与がコストとされ、また、「人材投資」という言われ方をしますが、そもそも人間がコスト削減や投資の対象というのは奇妙な話です。つまり従来の会計は株主・投資家のための会計であり、これを改めなければなりません。「新しい付加価値会計」も提唱されています。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・財務会計論Ⅰは簿記の背景にある会計の考え方を学びましたが、「Ⅱ」では最近公表された新しい会計基準の解説を行います。ここでの学修が、財務分析、管理会計、監査論、税務会計等へと展開していきます。

・日商簿記検定試験2級以上の内容。そして難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式)・会計学(論文式)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立ちます。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

(中間目標)　日商簿記２級のリース会計や外貨換算、連結会計等をマスターする。

(最終目標)　キャッシュ・フロー計算書、減損処理、退職給付会計等、アドバンストの内容をマスターする。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

試験範囲を明確してほしいとの要望を受け、試験問題の予告をするようにしています。

〔教科書〕

桜井久勝『財務会計講義＜最新版＞』中央経済社

＊財務会計論Ⅰで上記テキストを購入した人はそのまま使用してください。

〔指定図書〕

藤井・内藤・吉岡編著『フランス会計の歴史と制度』白桃書房 2024 年

〔前提科目〕

「会計学基礎論」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

① 確認テスト (45%)
② 期末テスト (45%)
③ ミニッツペーパー(出席カード) (10%)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本学でも公認会計士試験合格者や税理士試験科目合格者が誕生している。受講者が会計プロフェッション(国税専門官等も含む)の道にチャレンジすることを期待している。

〔実務経歴〕

銀行業及び税理士事務所

授業スケジュール＜目安です！＞

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義の進め方とキャッシュ・フロー会計の意義 利益とキャッシュの違い！ 教科書・指定図書 本シラバスおよび配布プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか):キャッシュ・フロー計算書 内 容:キャッシュ・フロー計算の作成とその解釈 (特に直接法と間接法の違いを理解すること) キャッシュ・フロー分析で倒産予知！！ 教科書・指定図書 第5章第5節 配布プリント
第3回	テーマ(何を学ぶか):無形固定資産の会計と減損会計 内 容: のれんとは。ソフトウェアの取り扱い。減損処理のポイント。 ブランド・ノウハウ・ロイヤルティーこそ資産！ 教科書・指定図書 第8章 第2・3節
第4回	テーマ(何を学ぶか):リース会計と繰延資産 内 容: リース会計とは。繰延資産と前払費用の違いについて。 え～借り物でも資産？ 教科書・指定図書 第9章 第4節 と練習問題
第5回	テーマ(何を学ぶか):負債会計(負債の概念と社債の会計処理) 内 容:負債の概念と分類・評価(測定)についての基本的な考え方。社債の会計処理。 国の借金は国債、会社の借金は社債 教科書・指定図書 第10章 第1節および第5章第1～3節のうち負債に関するところ
第6回	テーマ(何を学ぶか):引当金について 内 容: 引当金とは何か。引当金の設定要件。引当金の分類。退職給付について。 暗記すべし4つの要件！ 教科書・指定図書 第10章 第 1・2 節
第7回	テーマ(何を学ぶか):退職給付会計 内 容:退職給付見込額、退職給付債務、年金資産等と退職給付引当金の関係。資産除去債務。 公的年金と私的年金、退職一時金、退職年金の処理 教科書・指定図書 第10章 第 3・4 節

第8回	テーマ(何を学ぶか): 資産除去債務の会計、これまでの確認 内　容: 資産除去債務の処理と確認テストの実施 廃炉費用はいくらか？ 教科書・指定図書　第 10 章第 5 節 プリント配布
第9回	テーマ(何を学ぶか):純資産会① 内　容: 純資産の部の区分とその内容、授権資本制度と債権者保護について。 純資産と資本の違い。企業の存続と資本の維持について。 教科書・指定図書 第11章 第 1 節 プリント配布
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):純資産会計② 内　容:自己株式の会計処理、配当制限および株主資本等変動計算書 配当財源と分配可能額の計算。 教科書・指定図書 第 11 章 第2・3節 プリント配布
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表の作成と公表 内　容:損益計算書の概要、包括利益計算書、損益計算の基本原則、工事契約の会計処理他。 財務諸表の体系と連結会計の必要性。 教科書・指定図書 第12章 プリント配布
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表① 内　容: 連結会計の概要と連結貸借対照表における資本連結。 連結の基礎の基礎！ 教科書・指定図書 第 13 章 第 1・2 節
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表② 内　容:連結損益計算書の作成と未実現利益の消去 押し込み販売も一網打尽！ 教科書・指定図書 第13章 第 3 節
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表③ 内　容:連結第 2 年度以降の会計処理と総合計算問題演習。 簿記検定試験の過去問を解く。、持分法も紹介する。 教科書・指定図書 細 13 章 第 5 節および章末練習問題 プリント配布
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):外貨建取引等の換算 内　容: 外貨建取引と為替予約、在外支店・在外子会社の換算、および期末試験について予告 換算のパラドックス！ 教科書・指定図書 第 14 章 プリント配布
定期試験	期末試験を実施する

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
マクロ経済学	4　単位	専門科目 基礎科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
今　喜典	**時間:** 第 1 回講義時に説明する **場所:**	講義

〔科目の概要〕

一国全体の経済活動水準とその変動を説明するマクロ経済学の基本と日本のマクロ経済の現状を学ぶ。マクロ経済活動のメカニズムを知ることにより、生産量（GDP)、国民所得、物価、利子率、雇用、国際収支、為替レートなど、主要な経済指標が変化する仕組みを理解できる。

近年の日本経済は、リーマンショックから派生した世界金融危機（2008 年)、新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍（2020 年）などによって大きな打撃を受け、所得の低迷、失業の増加などを経験した。1990 年代なかば以降のバブル経済崩壊から続く「失われた 30 年」といわれる長期の不況は、いまようやく回復の動きが見える状況にある。

経済変動の理由には、コロナ禍や大震災のような自然現象要因、ロシアのウクライナ侵攻のような政治要因もあるが、企業投資や家計消費など経済主体の活動自体に内在する変動要因があり、また市場経済の調整プロセス、相互連関の中にも大きな変動をもたらす要素が含まれている。

講義の一つの焦点は、銀行など金融が果たす役割の説明である。日本銀行は過去十年ほど継続してきた「異次元の金融緩和」という金融政策を 2024 年に大きく変更した。授業では、企業や家計の行動と金融の関連を説明し、資産市場の分析とあわせて金融政策の効果を検討する。

もう一つの焦点は、開放経済要因である。日本の経済は自動車などの貿易が拡大し、また企業の海外進出が増加するとともに、金融の領域でも国際化がすすみ、金融市場は世界的に一体化している。為替レート、国際収支などを扱う開放マクロ経済学は、現代経済の動きを理解するためには、不可欠である。

授業は 4 つの段階から構成される。第１は一国経済の生産量、物価、雇用など全体の動きを体系的かつ整合的に把握するための観察・測定の枠組みの説明である。第２はモノ、カネ、ヒトの市場を定式化する「基本マクロモデル」の説明である。第３に貿易や国際金融など海外との取引を考慮した開放経済のマクロ理論を学ぶ。最後の段階で、各国の経済成長率の格差の理由など、長期の視点からマクロ経済の変動パターンを明らかにする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

マクロ経済学はミクロ経済学とならんで、経済学の体系の根幹をなしている。応用分野の「公共経済学」、「金融経済学」,「労働経済学」、「地域経済学」などの展開的な科目を学ぶ上で基本となる。

授業では国民所得、物価、失業、金利、為替レートなどの変動を説明するが、これらは日々の新聞や TV ニュースで報道される基本的な用語である。マクロ経済用語の意味と、ごく基本的なマクロ経済学を知らなければ、経済の動きを大きく見誤ることになる。社会人、企業人対象にさまざまの経済講演会が行われているが、それらの多くが「これからの景気の動き」をテーマにしていることは、マクロ経済がいかに実社会の日常の動きに深くかかわっているかを示している。マクロ経済学の理解により、経済の動きについてある程度筋道だった予測を行うことができるようになる。社会人としての日々の仕事の意味の理解，経営者の行動の分析、また地域社会の動きの認識と評価、さらに政治の場面で話題にのぼる多くの政策の議論においても、マクロ経済学の知識は欠くことができない。

〔科目の到達目標〕

到達目標は、国民所得、物価、雇用、為替レートなどを変動させている基本的仕組みを学び、またさまざまなマクロデータの見方を学ぶことにより、日本経済の現状とこれまでの動きの理解を深めることである。

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○				○	○	○

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕
平口良司，稲葉大著　『マクロ経済学-入門の「一歩前」から応用まで』(第3版)、
有斐閣ストゥディア、2023年

〔指定図書〕 吉川 洋著　『現代経済学入門　マクロ経済学』(第4版)、岩波書店、2017年

〔参考書〕
（1）オリヴィエ・ブランシャール著　『ブランシャール マクロ経済学 上（第2版）基礎編』、『ブランシャール マクロ経済学 下（第2版） 拡張編』、東洋経済新報社、2020年
（2）福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門（第6版)』有斐閣アルマ、2023

〔前提科目〕
経済学基礎論を履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
期末試験のほか、授業中に小テストを行う予定である。小テストを実施する回は、原則として事前に連絡する。小テスト40点，期末試験60点の合計点で評価する.

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
受講生はマクロ理論の基本を学ぶことにより、経済活動の因果連鎖を推論する楽しみを味わってほしい。理解を深めるため理論の難解な部分をとくにていねいに解説し，また最新の日本経済の動きをデータとともに紹介し、理論と現実の経済と関連づける。
学習において，教科書の熟読がきわめて有用である．とくに講義のあとの復習を奨励する。関心を持ったテーマについては、指定図書の関連部分を読み、理解を一層深めてほしい。授業で取り上げたマクロ経済のテーマについては，新聞やテレビのニュースも参考に，自分で考える習慣をつけてほしい。さらに一層深く学びたい学生は、若干レベルが高いが、参考図書に挑戦してほしい。

〔実務経歴〕　公的中小企業支援機関

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学とは何か 内　容:マクロ経済学のテーマの導入、日本経済のマクロ的側面の紹介 教科書・指定図書　教科書　序章
第2回	テーマ(何を学ぶか):GDPの計測（1） 内　容:一国全体の経済の大きさを，どのように測るか。付加価値、三面等価 教科書・指定図書　教科書　第1章　　指定図書　第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか): GDPの計測（2） 内　容: 実質GDP 教科書・指定図書　教科書　第1章　　指定図書　第1章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 物価など 内　容: 物価指数、失業、景気動向 教科書・指定図書 教科書　第1章　2章　　指定図書　第1章

第５回	テーマ(何を学ぶか): 金融市場と貨幣 内　容: マクロ経済と金融市場、金利、銀行、信用創造、貨幣の定義 教科書･指定図書　教科書　第３章　第４章　　指定図書　第３章
第６回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行 内　容:　中央銀行の機能　貨幣と物価、金融政策の手段、非伝統的金融政策 教科書･指定図書　教科書　第４章
第７回	テーマ(何を学ぶか): 財政 内　容: 政府の予算　税制　国債　政府債務の累積 教科書･指定図書　教科書　第５章
第８回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方（１） 内　容: 消費関数　ＧDP の決定 教科書･指定図書　教科書　第６章　　指定図書　第２章
第９回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方（２） 内　容: 均衡ＧDP の変化　乗数 教科書･指定図書 教科書　第６章　　指定図書　第２章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 投資、金利とＧDP 内　容: 投資関数　貨幣市場と金利の決定 教科書･指定図書　教科書　第６章　　指定図書　第４章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):　IS 曲線と LM 曲線 内　容: 財市場の均衡と貨幣市場の均衡 教科書･指定図書　教科書　第６章　　指定図書　第４章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用（１） 内　容:IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書･指定図書　教科書　第６章　　指定図書　第４章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用（２） 内　容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書･指定図書 教科書　第６章　　指定図書　第４章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (3) 内　容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書･指定図書 教科書　第６章　　指定図書　第４章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 復習と小テスト 内　容: 第 1～６章で学んだことの要点の復習 教科書･指定図書
第 16 回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給（１） 内　容: 物価水準の決定 教科書･指定図書　教科書　第７章　　指定図書　第６章
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):　総需要と総供給（２） 内　容: 物価水準の変化 教科書･指定図書 教科書　第７章　　指定図書　第６章
第 18 回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (3) 内　容: コロナ禍の分析 教科書･指定図書 教科書　第７章　　指定図書　第６章

第 19 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ（1） 内　容: AD/AS によるインフレ分析　インフレ期待　フィッシャー効果 教科書･指定図書　教科書　第 8 章　　指定図書　第 6 章
第 20 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ（2） 内　容: インフレコスト　インフレと失業　フィリップス曲線　オークン法則 教科書･指定図書　教科書第 8 章　　指定図書　第 6 章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学（1） 内　容: 開放経済　国際収支　外国為替市場　外国為替レート 教科書･指定図書　教科書　第 9 章　　指定図書　第 5 章
第 22 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学（2） 内　容:　為替レートの決まり方　金利平価 教科書･指定図書　教科書　第 9 章　　指定図書　第 5 章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (3) 内　容:　開放経済での金融政策 教科書･指定図書　教科書　第 9 章　　指定図書　第 5 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長（1） 内　容: 成長要因　ソローモデル 教科書･指定図書　教科書第 10 章　　指定図書　第 10 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長（2） 内　容: 貯蓄の効果　人口成長　技術進歩 教科書･指定図書　教科書第 10 章　　指定図書　第 10 章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):　経済成長 (3) 内　容: 経済成長の要因分解　成長会計　全要素生産性 教科書･指定図書　教科書第 10 章　　指定図書　第 10 章
第 27 回	テーマ(何を学ぶか): 資産市場（1） 内　容: 資産価格の決まり方　割引現在価値 教科書･指定図書　教科書　第 11 章　　指定図書　第 3 章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):　資産市場 (2) 内　容:　バブルの発生と崩壊 教科書･指定図書　教科書第 11 章　　指定図書　第 3 章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか): 後半の復習 内　容:　物価の決定以降の要点復習 教科書･指定図書　教科書第 7～11 章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 全体の復習 内　容: 全体の要点復習 教科書･指定図書　教科書：1 章～11 章の復習
試　験	筆記試験